

科目名	仏教と文化				Buddhism and Culture	
教員名	坂 輪 宣 敬			授業区分	〈幼〉基礎教育科目	
年次配当	1 年次後期	単位数	2 単位	選択・必修	選択	
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得					
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立					
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立					◎
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢					
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮					
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得					
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮					
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得					
授業表題	仏教の基本と豊かな文化的展開を学ぶ					
授業の 概要・目的	仏教の重要な、かつ基本的な事項を学び、さらにインド、中国の文化的、美術的な展開をスライドを参照しつつ学んでゆく。					
授業の 到達目標	仏教文化の理解を通して自我意識の確立と慈悲にあふれた共生の思いを育む					
授業計画	1. 仏教とは何か (1)学問と信仰 (2)宗派 (3)仏教系大学					
	2. 仏教とは何か (4)					
	3. 仏教とは何か (5)					
	4. 仏の教えとは何か (1)					
	5. 仏の教えとは何か (2) ※外部講師による授業					
	6. 法華経 ほけきょう という教え (1)					
	7. 法華経 ほけきょう という教え (2) ※これまでの講義をもとにレポートを書く					
	8. インドにおける仏教のはじまりと展開					
	9. インドにおける仏教の文化 アショーク王、ストゥーパ、石窟寺院					
	10. 中国における仏教の受容 仏教初伝、翻訳、教相判釈					
	11. 中国における仏教美術 三大石窟の仏像と壁画					
	12. 仏教ワールド (1) 所作を学ぼう					
	13. 仏教ワールド (2) 仏教文学の深さを知る					
	14. 仏教ワールド (3) 世界の諸事情にふれる・レポートを書く					
	15. レポートによるまとめ					
評価方法	小レポート(第 7・14 回目 : 40%)と期末試験 (60%) による評価とします。 ただし、2/3 以上出席しなければ成績を評価しません。					
テキスト ※必ず購入	とくに使用しません。					
参考書 ※必要に応じ購入	授業の初めに紹介します。					
受講条件 ルール等						
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	折々コピーを配布します。それを良く読んで、次回の授業に臨んでください。					

科目名	文学 Literature			
教員名	高 橋 汐 子		授業区分	〈幼〉基礎教育科目
年次配当	1 年次後期	単位数	2 単位	選択・必修 選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			◎
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			
授業表題	源氏物語を読む			
授業の 概要・目的	源氏物語の正編(光源氏の生涯)を中心に、物語の核となる場面を抽出して読んでいく。あらすじを追うだけではなく、原文(古文)を味わうことを目的とするが、物語内容に初めて触れる学生にも解るよう、人物関係や時代背景の説明も行っていく。			
授業の 到達目標	1. 日本文化への理解を深める。 2. 源氏物語の概略を掴む。 3. 古文に親しむ。			
授業計画	1. 源氏物語の背景			
	2. 母桐壺の更衣			
	3. 若紫との出会い			
	4. 藤壺との密通事件			
	5. 葵上の死			
	6. 須磨流離			
	7. 明石の君と明石の姫君			
	8. 六条院世界			
	9. 栄華への道			
	10. 女三宮の降嫁			
	11. 柏木との密通事件			
	12. 紫の上の病			
	13. 光源氏世界の終焉			
	14. 光が消えた後の世界へ			
	15. まとめ			
評価方法	レポート試験			
テキスト ※必ず購入	秋山虔・桑名靖治・鈴木日出男編 『源氏物語読本』 筑摩書房			
参考書 ※必要に応じ購入	鈴木日出男編 『源氏物語ハンドブック』 三省堂 その他、授業内で紹介する			
受講条件 ルール等	源氏物語がどのような物語なのかを知りたいと思っている学生を対象としている。授業に意欲的に取り組むことを条件とし、欠席や私語は慎むこと。			
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	次週の範囲の原文と現代語訳を必ず読んでくること。			

科目名	コミュニケーション学概論			Outline of Communications Study	
教員名	有 泉 正 二			授業区分	〈幼〉基礎教育科目
年次配当	1 年次前期	単位数	2 単位	選択・必修	選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				○
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				◎
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				
授業表題	コミュニケーションの研究法				
授業の 概要・目的	言語・心理・社会など多方面から「コミュニケーション」を学ぶことで理解の幅を広げる。また、他人との関わり方を見つめ直し、現代に求められるコミュニケーションのあり方を探る。				
授業の 到達目標	・日常的に行っているコミュニケーションの成り立ちを学ぶことができる ・ビジネス・心理・観光といった専門分野にも関連づけて考えることができる ・現代のコミュニケーションに関して自分の意見を持つことができる				
授業計画	1. コミュニケーションを学ぶためのガイダンス				
	2. コミュニケーション学の領域				
	3. コミュニケーションの基本モデル				
	4. 日常のコミュニケーション分析(Ⅰ) ―暮らしの中の言葉―				
	5. 日常のコミュニケーション分析(Ⅱ) ―「見知らぬ人」同士の出会い―				
	6. 日常のコミュニケーション分析(Ⅲ) ―私たちはなぜ「おしゃべり」ができるのか―				
	7. コミュニケーションが社会に及ぼす影響(Ⅰ) ―うわさ―				
	8. コミュニケーションが社会に及ぼす影響(Ⅱ) ―詐欺―				
	9. コミュニケーションが社会に及ぼす影響(Ⅲ) ―世論―				
	10. コミュニケーション・スキルを考える(Ⅰ) ―通じ合う―				
	11. コミュニケーション・スキルを考える(Ⅱ) ―わかり合う・認め合う―				
	12. コミュニケーションの現状(Ⅰ) ―モバイル・メディアにおけるやりとり―				
	13. コミュニケーションの現状(Ⅱ) ―コミュニケーション不全―				
	14. コミュニケーションの現状(Ⅲ) ―ネット依存・メディア中毒―				
	15. 現代に求められるコミュニケーションのあり方				
評価方法	定期試験および講義内レポート				
テキスト ※必ず購入	テキストは使用しない。必要に応じて参考資料を配付する。				
参考書 ※必要に応じ購入	東田直樹『跳びはねる思考』イースト・プレス, 2014 年. 長田政一編『つながる／つながらない』の社会学』弘文堂, 2014 年. 辻大介・是永論・関谷直也『コミュニケーション論をつかむ』有斐閣, 2014 年.				
受講条件 ルール等	本講義は現代コミュニケーション専攻全学生対象の必修科目なので座席を指定する				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	・普段から日常会話で使う言葉やコミュニケーションの仕方で気づいた点をメモする ・板書を写したノートやプリントを見返して次の授業に臨むこと				
科目名	歴史学			History	

教員名	梶 暁 美			授業区分	〈幼〉基礎教育科目
年次配当	1 年次前期	単位数	2 単位	選択・必修	選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				◎
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				
授業表題	建築デザインからみる日本と西洋の文化的背景				
授業の 概要・目的	歴史を縦と横のラインでとらえることにより、ものごとを多角的に考えられるようになることを目標とします。講義はパワーポイントで画像を見ながら行います。				
授業の 到達目標	異文化を学ぶことにより、民族や宗教を理解できるようになる				
授業計画	1. 縄文・弥生時代(リーダーの登場)/エジプト・メソポタミア(四大文明)				
	2. 飛鳥・奈良時代(仏教伝来の影響)/ギリシャ・ローマ(ヨーロッパの古典)				
	3. 平安貴族と寝殿造 / ビザンチン(ギリシャ正教のデザイン)				
	4. 平等院鳳凰堂は癒しの空間 / イスラム(人物崇拝禁止のデザイン)				
	5. 貴族の住居と武家の住居 / ロマネスク(ローマカソリックの台頭)				
	6. 南北朝時代の無法者 / ゴシック(ローマカソリックの全盛期)				
	7. 鹿苑寺金閣と義満の野望 / イタリアルネサンス1(古典の再生)				
	8. 室町時代のインテリアコーディネーター / イタリアルネサンス2				
	9. 織田信長・下克上の造形 / フランスルネサンス				
	10. 豊臣秀吉と千利休 / イタリアバロック(装飾過多のデザイン)				
	11. 二条城二の丸御殿にみる書院造 / フランスバロック				
	12. 桂離宮のモダン/ロココ・ネオクラシック(女性のファッションリーダー)				
	13. 日光東照宮の再評価 / ナポレオンの造形・アンピール様式				
	14. 産業革命後の近代デザイン				
	15. まとめ。DVD鑑賞				
評価方法	期末試験(第14回目に実施60%)・授業時間内のプレゼンテーション(第13回目に締め切り30%)とミニレポート(10%)による評価とします。ただし2/3以上出席しなければ成績を評価しません。				
テキスト ※必ず購入	適宜プリント配布				
参考書 ※必要に応じ購入	問題集を配布しますので、予習・復習に活用してください。				
受講条件 ルール等	高校時代、歴史が苦手だった学生に特に受講してほしい。歴史の概念が変わるかもしれませんが。もちろん歴史の大好きな学生も大歓迎です。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	初回に配付する年表で、学習する時代を確認すること。				
科目名	法学概論 A(日本国憲法)		Outline of Law BJapanese Constitution		
教員名	竹 腰 幸 綱			授業区分	〈幼〉基礎教育科目

年次配当	1 年次前期	単位数	2 単位	選択・必修	必修
この授業の位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				◎
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				
授業表題	憲法と現代社会				
授業の概要・目的	最近のニュースや、過去の事件とこれに対する裁判所の判断(判例)を通じて、憲法の基本的な考え方を学びます。				
授業の到達目標	憲法の基本的な考え方を学ぶことで、現代社会の中で起こっている憲法問題について、自分の考えを持てるようにすることが目標です。				
授業計画	1. ガイダンス・授業運営方法				
	2. 憲法とは何か [総論]				
	3. 法律はどのように作られるのか [国会]				
	4. 被害者が異なることで刑罰の重さが変わってもよいのか [平等原則①]				
	5. 非嫡出子を相続で差別することは許されるか [平等原則②]				
	6. 一票の格差はどこまで許容されるか [選挙制度]				
	7. 信仰を理由に剣道の受講を拒否することは許されるか [信教の自由①]				
	8. 信仰を理由に輸血を拒否することができるのか [信教の自由②]				
	9. どのような報道を行っても許されるのか [表現の自由①]				
	10. 有害図書の販売規制をすることは可能か [表現の自由②]				
	11. プライバシー権と表現の自由との調整はどうすべきか [表現の自由③]				
	12. 先端技術研究としてどのような研究をしてもよいのか [学問の自由]				
	13. 逮捕されてしまったときに権利は保障されているのか [人身の自由]				
	14. 平和主義・憲法改正の内容とは				
	15. まとめ				
評価方法	テスト40%, レポート30%, 授業態度30%で評価します。				
テキスト ※必ず購入	駒村圭吾編『プレステップ憲法』(弘文堂・2014年) 毎回の授業でレジュメを配布する予定です。				
参考書 ※必要に応じ購入	関心のある方には、次の書籍をお薦めします(購入しなくても構いません。) 棟居快行ほか『基本的人権の事件簿(第4版)』(有斐閣・2011年) 芦部信喜『憲法(第5版)』(岩波書店・2011年) 大石眞・大沢秀介編『判例憲法(第2版)』(有斐閣・2012年)				
受講条件 ルール等	様々な事件や考え方を扱いますので、ぜひ自分で色々と考えてみてください。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	授業において予習の範囲を指定します。 憲法を身近に感じられるよう、具体的事例を用いた授業をしたいと考えています。				

科目名	食の科学 Science of Food			
教員名	島 本 和 恵		授業区分	〈幼〉基礎教育科目
年次配当	1 年次前期	単位数	2 単位	選択・必修 必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			○
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			◎
授業表題	食を科学的側面から捉え、健康との関連を知る。			
授業の 概要・目的	食品に含まれる栄養素を知り、体内での働きを理解する。実験実習では、5 つの基本味や、味の相乗効果などを体験することにより、味覚感覚を養う。また、生活環境と食品の安全性について検討する。			
授業の 到達目標	健康に生活するための食に対する意識、情報収集能力・判断力を身につける。			
授業計画	1. オリエンテーション 食の最新情報			
	2. 栄養と栄養素 食品構成と人体構成			
	3. 三大栄養素			
	4. 微量栄養素			
	5. 食事バランスと健康			
	6. 一日 350g の野菜を食べることの必要性を知る			
	7. 調理による量の変化を知る			
	8. 野菜料理の献立作成 //			
	9. 調理実習（実習：レポート提出） //			
	10. おいしさの要因 とは一視覚と嗅覚が味覚に及ぼす影響			
	11. 5つの味覚味を知る（甘味・塩味・酸味・苦味・旨味）（実習：レポート提出）			
	12. 味の相乗効果を知る ― だしを取り、味噌汁を作る（実習：レポート提出）			
	13. 生活環境と食品の安全性 I			
	14. 生活環境と食品の安全性 II（実習：レポート提出）			
	15. まとめ			
評価方法	積極的授業参加態度（グループワークおよび実習参加態度含む）・レポートの提出状況、試験などから総合的に評価する。			
テキスト ※必ず購入	基本マスター フード&クッキング（実教出版）			
参考書 ※必要に応じ購入				
受講条件 ルール等	授業中の私語、携帯電話の使用は授業妨害とみなし、厳しく注意する。			
準備学習の （予習・復習） 内容と分量	・次回授業で取り扱う指定課題について、熟読し理解を深めておく。 ・実習を通じて理解を深めた内容は、指示に従いレポートを作成し、理論的に考察を行うこと。 ・授業や実習から得た知識を深めるため、次回授業に向けて質疑をまとめておく。			

科目名	基礎日本語 Basic Japanese			
教員名	高 橋 汐 子		授業区分	〈幼〉基礎教育科目
年次配当	1 年次前期	単位数	2 単位	選択・必修 必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			◎
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			○
授業表題	日本語表現法			
授業の 概要・目的	文章表現の基礎を学ぶほか、手紙の書き方や正しい敬語の使い方等を再確認し、社会生活において、適切かつ豊かな言語表現が可能となるよう学習することを目的とする。			
授業の 到達目標	1. 正確な日本語を修得する。 2. 豊かな表現力を身につける。 3. 論理的な文章が書ける。			
授業計画	1. ガイダンス 文章の基礎			
	2. 原稿用紙の使い方			
	3. 段落・接続詞			
	4. 構成			
	5. 自己 PR 文を書く			
	6. 手紙の書き方			
	7. 手紙を書く			
	8. 実習日誌の書き方			
	9. 実習日誌を書く①			
	10. 実習日誌を書く②			
	11. 正確な言葉の習得①			
	12. 正確な言葉の習得②			
	13. 論理的な文章の書き方			
	14. 論理的な文章を書く			
	15. まとめ			
評価方法	授業時の提出物及び課題文の総合評価			
テキスト ※必ず購入	授業内で配布されるプリント			
参考書 ※必要に応じ購入	庄司達也ほか編『日本語表現法 改訂版』翰林書房 その他、適宜授業内で紹介する			
受講条件 ルール等	授業内において、実際に書いて提出する課題が多くあるので、欠席しないように心がける。やむを得ず欠席する場合も、課題は後日必ず提出すること。			
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	1. 日頃から文章を読む習慣を身につける。 2. 話し言葉にならないように注意しながら文章を書く練習をする。			

科目名	国語 I			Japanese I	
教員名	高 橋 汐 子			授業区分	〈幼〉 専門教育科目
年次配当	1 年次前期	単位数	1 単位	選択・必修	選択／幼免選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				◎
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				○
授業表題	日本語力を養う				
授業の 概要・目的	日本語検定3級、漢字検定準2級の合格を目標とし、その水準に達するための日本語力を養うことを目的とする。				
授業の 到達目標	1. 日本語検定3級に合格する水準の日本語力を身につける。 2. 漢字検定準2級に合格する水準の漢字力を身につける。				
授業計画	1. ガイダンス				
	2. 日本語検定対策 「敬語」について				
	3. 漢字検定対策				
	4. 日本語検定対策 「文法」について				
	5. 漢字検定対策				
	6. 日本語検定対策 「語彙」について				
	7. 漢字検定対策				
	8. 日本語検定対策 「言葉の意味」について				
	9. 漢字検定対策				
	10. 日本語検定対策 「表記」について				
	11. 漢字検定対策				
	12. 日本語検定対策 「漢字」について				
	13. 漢字検定対策				
	14. 日本語検定対策 総合問題				
	15. まとめ				
評価方法	授業時における試験の総合(60%以上を合格点とする)				
テキスト ※必ず購入	『2016年版 漢検試験問題集 準2級』 旺文社 『日本語検定 公式 練習問題集 改訂版 3級』 東京書籍				
参考書 ※必要に応じ購入	授業時に適宜紹介する				
受講条件 ルール等	隔週で漢検の問題を使った小テストを実施する。また、日本語検定に関しては、学期の終わりに授業内で総合試験を実施する。それぞれの試験結果が評価に反映されるので、欠席しないこと。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	1. 隔週で実施する漢検の試験に関しては、あらかじめ範囲を指定するので、必ず学習してから試験に臨むこと。 2. 日本語検定の問題集は、授業範囲を予習してから授業に臨むこと。				

科目名	国語Ⅱ			JapaneseⅡ	
教員名	高 橋 汐 子			授業区分	〈幼〉専門教育科目
年次配当	1 年次後期	単位数	1 単位	選択・必修	選択／幼免選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				◎
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				○
授業表題	日本語力を養う				
授業の 概要・目的	日本語検定2級、漢字検定2級の合格を目標とし、その水準に達するための日本語力を養うことを目的とする。				
授業の 到達目標	1. 日本語検定2級に合格する水準の日本語力を身につける。 2. 漢字検定2級に合格する水準の漢字力を身につける。				
授業計画	1. ガイダンス				
	2. 日本語検定対策「敬語」について				
	3. 漢字検定対策				
	4. 日本語検定対策「文法」について				
	5. 漢字検定対策				
	6. 日本語検定対策「語彙」について				
	7. 漢字検定対策				
	8. 日本語検定対策「言葉の意味」について				
	9. 漢字検定対策				
	10. 日本語検定対策「表記」について				
	11. 漢字検定対策				
	12. 日本語検定対策「漢字」について				
	13. 漢字検定対策				
	14. 日本語検定対策 総合問題				
	15. まとめ				
評価方法	授業時における試験の総合(60%以上を合格点とする)				
テキスト ※必ず購入	授業内で指示する。				
参考書 ※必要に応じ購入	『2016年版 漢検試験問題集 2級』旺文社 『日本語検定 公式 練習問題集 改訂版 2級』東京書籍				
受講条件 ルール等	隔週で漢検の問題を使った小テストを実施する。また、日本語検定に関しては、学期の終わりに授業内で総合試験を実施する。それぞれの試験結果が評価に反映されるので、欠席しないこと。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	1. 隔週で実施する漢検の試験に関しては、あらかじめ範囲を指定するので、必ず学習してから試験に臨むこと。 2. 日本語検定の問題集は、授業範囲を予習してから授業に臨むこと。				

科目名	健康科学(体育講義)				Health & Science	
教員名	森 田 ゆ い			授業区分	〈幼〉基礎教育科目	
年次配当	1 年次前期	単位数	2 単位	選択・必修	必修	
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得					
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立					○
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立					◎
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢					
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮					
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得					
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮					
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得					
授業表題	健康科学の基礎知識					
授業の 概要・目的	健康に関する基本的な知識を学び、自身の健康管理に役立てる。心と身体の健康についてディスカッションを行い、自身の「健康観」やそして健康維持に役立つ手法を生み出し、その内容について発表する。					
授業の 到達目標	1. 健康に関する基本的な知識や問題意識を高める。 2. 心と身体の健康について理解を深め、自分オリジナルの「健康観」と健康維持の手法を模索する。					
授業計画	1. ガイダンス、授業概要、事前調査					
	2. 近年の現状と問題点～問題意識を高めよう					
	3. 近年の現状と問題点～気になるワードを挙げてみよう					
	4. 運動と健康 その1					
	5. 運動と健康 その2					
	6. 心と身体 その1					
	7. 心と身体 その2					
	8. 健康維持の手法					
	9. 「健康観」について					
	10. プレゼンテーションガイダンス					
	11. プレゼンテーション①					
	12. プレゼンテーション②					
	13. プレゼンテーション③					
	14. 私の考える「健康観」と健康維持の手法					
	15. 前期総括、事後調査					
評価方法	課題提出、プレゼンテーション試験(第11～13回に実施40%)とレポート試験(60%)により評価する。但し、3/2以上出席しなければ成績を評価できません。					
テキスト ※必ず購入	教科書は指定せず、必要な資料を配布する。					
参考書 ※必要に応じ購入	授業テーマに沿って、適宜紹介する。					
受講条件 ルール等	1. 欠席、遅刻、早退のないように心がけ、授業中の私語は厳禁。 2. 受け身で受講するだけでなく、自ら問題意識を立ち上げて調査し、プレゼンテーションも行う講座である。積極的に取り組むことを期待する。					
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	1. 日常的に「健康」に関する情報や題材に興味を持ち、問題意識を育てること。 2. 自身の健康状態に関心を持ち、生活習慣と健康状態の関係を意識して過ごすこと。 3. プレゼンテーションでは、人前でしっかり発表する準備を整えておくこと。					

科目名	フィジカル・エクササイズ [*] (体育実技) Physical Exercise			
教員名	森 田 ゆ い		授業区分	〈幼〉基礎教育科目
年次配当	1 年次後期	単位数	1 単位	選択・必修 必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			◎
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			○
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			
授業表題	生涯スポーツの理論と実践			
授業の 概要・目的	スポーツ活動を通して仲間とのコミュニケーションを図り、スポーツの楽しみ方や生活の質(QOL)との関連について理解する。			
授業の 到達目標	身体活動を通して、心身をコントロールし、メンテナンスすることの快適さや必要性を実感し、生涯にわたって土台となる健康な身体づくりを目指す。			
授業計画	1. ガイダンス、事前調査、種目決定			
	2. ストレッチ、ダンスエクササイズ、クールダウン～身体を準備しよう			
	3. ダンス①			
	4. ダンス②			
	5. バドミントン①			
	6. バドミントン②			
	7. バスケットボール①			
	8. バスケットボール②			
	9. テニス①			
	10. テニス②			
	11. 選択種目①			
	12. 選択種目②			
	13. 選択種目③			
	14. 選択種目④			
	15. 総括、活動の振り返り、事後調査			
評価方法	授業への積極的な参加と活動状況(通常点)と実技点によって評価します。※但し、3/2 以上出席しなければ成績を評価できません。			
テキスト ※必ず購入	教科書は指定せず、適宜資料を配布する。			
参考書 ※必要に応じ購入	授業内で適宜紹介する。			
受講条件 ルール等	1. 実技授業の為、欠席のないように心がけ、遅刻は減点対象とする。 2. 運動に適した体操着に必ず着替え、アクセサリ類は怪我防止のため外すこと。 3. 体育館使用時間には、必ず「体育館シューズ」を持参すること。 ※施設の使用状況により、種目が前後する可能性があります。			
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	1. 日ごろより、基本的な生活習慣を心がけること。 2. 活動を通して、リフレッシュする心地よさを味わい、快適な学生生活へとつなげること。 3. 用具の整理整頓に努めること(当番制)			

科目名	ボランティア Volunteer			
教員名	前 嶋 元		授業区分	〈幼〉基礎教育科目
年次配当	1 年次前期	単位数	1 単位	選択・必修 必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			○
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			◎
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			
授業表題	ボランティア活動の理解とその実践を通した学び			
授業の 概要・目的	ボランティアは社会のための活動と考えられがちだが、何よりも自分自身を豊かにしてくれる自分のための活動でもある。本科目では、ボランティアの概念、担い手、活動分野等に関する講義を通して、実際のボランティア活動を実践するため知識と方法を学んでいく。			
授業の 到達目標	ボランティアの意義と課題について説明できるようになる。 多様なボランティア活動の分野とその担い手について説明できるようになる。 自らの興味関心に基づきボランティア活動を実践し報告書をまとめる。			
授業計画	1. オリエンテーション、ボランティアとは？			
	2. ボランティア活動の分野とその担い手①(保育、福祉、保健医療)			
	3. ボランティア活動の分野とその担い手②(災害、環境、教育)			
	4. ボランティア活動の分野とその担い手③(スポーツ、芸術文化、その他)			
	5. ボランティア活動を実践するために必要なこと(準備・実践・評価)			
	6. (以降、各自で 30 時間以上のボランティア活動を実践し報告書を提出する)			
	7.			
	8.			
	9.			
	10.			
	11.			
	12.			
	13.			
	14.			
	15.			
評価方法	ボランティア先からの評価報告と活動報告書、および提出物と受講態度により総合的に評価する。			
テキスト ※必ず購入	使用しない。			
参考書 ※必要に応じ購入	授業時に適宜紹介する。			
受講条件 ルール等	自らの学びの目的を明確にして受講してほしい。また、受講の際、私語や態度等、他者への配慮も忘れないでほしい。単位を取得するためには、講義への出席のほか 30 時間以上のボランティア活動を年度内に終了させる必要がある(授業時に詳細解説)。			
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	1.講義を通して、興味関心があるボランティア活動の分野とその内容を見つけて下さい。 2.本科目を通して、実習に望む前に保育や福祉の現場実践を体験できる機会は貴重であると考え、積極的な姿勢でボランティア活動を実践して下さい。			

科目名	子どもの食と栄養			Child Food and Nutrition	
教員名	金 親 未 樹			授業区分	〈幼〉 専門教育科目
年次配当	1 年次通年	単位数	2 単位	選択・必修	選択／保資必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				○
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				
授業表題	子どもの育ちと食のあり方について理解する				
授業の 概要・目的	子どもの発達段階における栄養や食生活の特性・重要性を認識し、保育との関連のなかで保育者として対応できる知識と技術を身につけることを目標とする。さらに子どもの食生活を学びながら、家族の健康や生活、地域との密接な関係や環境についても学び、保育者自身の望ましい食生活の構築にも取り組んでほしい。				
授業の 到達目標	保育との関連のなかで保育者として対応できる食に関する知識と技術を身につけること				
授業計画	1. 子どもの栄養と食生活の意義		16. 幼児期の特徴と食生活		
	2. 子どもの食生活の現状と課題		17. 幼児期の栄養上の問題点		
	3. 栄養の基礎知識		18. 実習③幼児食		
	4. 栄養バランス		19. 弁当と給食		
	5. 子どもの発育発達と食生活		20. 実習④弁当		
	6. 胎児の栄養・妊娠期の栄養		21. 心の健康と食生活環境		
	7. 母乳栄養と人工栄養		22. 実習⑤手作り間食		
	8. 実習①調乳		23. 学童期食生活		
	9. 食べる機能の発達		24. 食育の基本と内容		
	10. 離乳食の意義と必要性		25. 食育のための環境		
	11. 離乳食の進め方・与え方		26. 実習⑥行事食		
	12. 離乳食の食品と調理		27. 思春期の食生活		
	13. 離乳食の献立作成		28. 家庭や児童福祉施設の食事・栄養		
	14. 実習②離乳食		29. 疾病・体調不良の子どもへの対応		
	15. 離乳期まとめ		30. 障害を持つ子どもへの対応		
評価方法	授業への参加態度(グループワーク・実習参加態度含む)・レポートの提出・試験などから総合的に評価する。				
テキスト ※必ず購入	子どもの食と栄養(保育出版社)				
参考書 ※必要に応じ購入					
受講条件 ルール等	実習日には、エプロン・三角巾を用意し、爪を短く切りそろえる。マニキュア等はない。グループワーク・実習では、グループのメンバー全員が実習に参加できるよう、協力し合うこと。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	・次回授業で取り扱う指定課題について、熟読し理解を深めておく。 ・実習を通じて理解を深めた内容は、レポートを作成し、理論的な考察を行う。 ・講義や実習から得た知識を深めるため、次回授業に向けて質疑をまとめておく。				

科目名	保育原理			Principles of Childcare	
教員名	三 國 隆 子			授業区分	〈幼〉 専門教育科目
年次配当	1 年次前期	単位数	2 単位	選択・必修	必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				○
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				◎
授業表題	保育とは何かを理解する。				
授業の 概要・目的	保育とは何か、なぜ保育するのかについて学んだ上で、子どもを取り巻く保育の現状について理解する。				
授業の 到達目標	子どもの年齢・発達に応じた保育、保育所保育指針や幼稚園教育要領に基づく保育について理解する。				
授業計画	1. オリエンテーション 「保育」とは何か				
	2. 保育の意義と目的				
	3. 保育の原理 「保育」の始まり				
	4. 保育所と幼稚園の機能と役割(1)				
	5. 保育所と幼稚園の機能と役割(2)				
	6. 保育所保育指針と幼稚園教育要領の変遷(1)				
	7. 保育所保育指針と幼稚園教育要領の変遷(2)				
	8. 幼稚園の保育内容と教育課程				
	9. 保育所の保育内容と保育課程				
	10. 3歳未満児の保育について(1)				
	11. 3歳未満児の保育について(2)				
	12. 3歳以上児の保育について(1)				
	13. 3歳以上児の保育について(2)				
	14. 保育者の仕事と役割について				
	15. まとめ				
評価方法	授業内の課題・提出物(40%)、期末試験(60%)により総合的に評価する。				
テキスト ※必ず購入	『保育所保育指針解説書』フレーベル館、『幼稚園教育要領解説書』フレーベル館 『保育最新資料集』ミネルヴァ書房				
参考書 ※必要に応じ購入	授業内で適宜紹介する。				
受講条件 ルール等					
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	『保育所保育指針』、『幼稚園教育要領』『保育最新資料集』など、授業で指定された箇所についてあらかじめ読んでから授業に臨み、授業プリントとあわせて復習を行うこと。				

科目名	発達心理学 I				Developmental Psychology I	
教員名	三 國 隆 子			授業区分	〈幼〉 専門教育科目	
年次配当	1 年次前期	単位数	2 単位	選択・必修	必修	
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得					
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立					
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立					○
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢					
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮					
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得					
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮					
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得					◎
授業表題	生涯発達の視点から人の発達を学ぶ。					
授業の 概要・目的	胎生期から児童期までの人の発達を学び、保育者としてどのように子どもと関わるのかを理解する。					
授業の 到達目標	胎生期から児童期までの人の発達の様相を学んだ上で、それぞれの発達段階における養育者や保育者の関わり方について理解する。					
授業計画	1. オリエンテーション 発達心理学とは何か					
	2. 生涯発達の考え方について(1)発達シートの作成					
	3. 生涯発達の考え方について(2)わたしの発達絵本の作成					
	4. 人の発達(1)胎生期 ①命のはじまり					
	5. 人の発達(1)胎生期 ②人が誕生するまで					
	6. 人の発達(2)新生児期 ①新生児期の発達の特徴					
	7. 人の発達(2)新生児期 ②赤ちゃんの世界					
	8. 人の発達(3)乳児期 ①乳児期の発達の特徴					
	9. 人の発達(3)乳児期 ②前言語期のコミュニケーション、ベビーサイン					
	10. 人の発達(3)乳児期 ③アタッチメントの形成					
	11. 人の発達(4)幼児期 ①幼児期の発達の特徴					
	12. 人の発達(4)幼児期 ②表象の獲得・社会性の発達					
	13. 人の発達(5)児童期 児童期の発達の特徴					
	14. 生涯発達の視点からとらえる胎生期から児童期までの発達					
	15. まとめ					
評価方法	授業内の課題・提出物(40%)、期末試験(60%)により総合的に評価する。					
テキスト ※必ず購入	使用しない。					
参考書 ※必要に応じ購入	授業内で適宜紹介する。					
受講条件 ルール等						
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	「発達シート」「わたしの発達絵本」など、提出期日に間に合うように準備すること。 授業プリントの「本日の課題」を参照して、復習を行うこと。					

科目名	乳児保育 I			Baby Childcare I	
教員名	三 國 隆 子			授業区分	〈幼〉専門教育科目
年次配当	1 年次後期	単位数	1 単位	選択・必修	必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				○
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				◎
授業表題	乳児の保育のあり方について学ぶ				
授業の 概要・目的	乳児の特性を踏まえた上で、実技を通して乳児との関わり方を学ぶ。				
授業の 到達目標	・乳児とは何か、乳児の特徴は何かを知る。 ・乳児保育の実際を学び、保育者としての関わり方について実技を通して身につける。				
授業計画	1. オリエンテーション				
	2. 乳児と幼児 乳児の定義				
	3. 乳児保育の変遷と意義				
	4. 乳児の生活① 胎生期から乳児期へ				
	5. 乳児の生活② 新生児期から				
	6. 乳児の心身の発達①				
	7. 乳児の心身の発達②				
	8. 乳児の保育① 乳児のおもちゃづくり				
	9. 乳児の保育② //				
	10. 【実技】おむつ交換				
	11. 乳児の生活と環境①				
	12. 乳児の生活と環境②				
	13. 【実技】沐浴				
	14. 乳児保育への展開				
	15. まとめ				
評価方法	授業内課題・提出物・発表(60%)、期末試験(40%)により総合的に評価する。				
テキスト ※必ず購入	高内正子編著『乳児保育への招待～胎児期から2歳児まで』北大路書房				
参考書 ※必要に応じ購入	授業内で適宜紹介する。				
受講条件 ルール等					
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	授業プリントの「本日の課題」を参照して、復習を行うこと。 テキストの指定範囲をあらかじめ読んでから授業に臨むこと。				

科目名	乳児保育Ⅱ				Baby Childcare Ⅱ	
教員名	三 國 隆 子			授業区分	〈幼〉専門教育科目	
年次配当	2年次前期	単位数	1単位	選択・必修	必修	
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得					
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立					
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立					○
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢					
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮					
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得					
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮					
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得					◎
授業表題	保育現場における乳児保育の実際について学ぶ。					
授業の 概要・目的	乳児保育Ⅰでの学びを踏まえ、保育現場での乳児保育のあり方について学ぶ。					
授業の 到達目標	・授業での学びを保育実習につなげられるよう、乳児の特性をふまえた実践力を身につける。 ・乳児への関わり方や対応の仕方を身につける。					
授業計画	1. オリエンテーション					
	2. 乳児保育Ⅰの振り返り					
	3. 乳児保育の流れを知る① デイリープログラムから					
	4. 乳児保育の流れを知る② 長期的な視点から					
	5. 乳児保育の流れを知る③ 保育者同士の連携					
	6. 乳児への関わり① 製作					
	7. 乳児への関わり② 〃					
	8. 保育場面を想定した発表①					
	9. 保育場面を想定した発表②					
	10. 乳児の絵本① 乳児期の特徴					
	11. 乳児の絵本② 読み聞かせについて					
	12. 保育現場を想定した発表①					
	13. 保育場面を想定した発表②					
	14. 乳児への保育者の関わり					
	15. まとめ					
評価方法	授業内課題・提出物・発表、レポートにより総合的に評価する。					
テキスト ※必ず購入	高内正子編著『乳児保育への招待～胎児期から2歳児まで』北大路書房					
参考書 ※必要に応じ購入	授業内で適宜紹介する。					
受講条件 ルール等	乳児保育Ⅰを履修済みであること。					
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	授業プリントの「本日の課題」を参照して、復習を行うこと。					

科目名	保育実習指導Ⅰ(保育所)			Instruction of Childcare TrainingⅠ	
教員名	三 國 隆 子			授業区分	〈幼〉専門教育科目
年次配当	2年次前期前半(週2回)	単位数	1単位	選択・必修	選択／保資必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				○
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				◎
授業表題	保育実習Ⅰ(保育所)に向けての事前事後指導				
授業の 概要・目的	保育実習Ⅰ(保育所)の意義を理解し、実習に向けての準備や心構え、事後指導を行う。				
授業の 到達目標	・保育所における実習に向けて、自分の課題を明確にした上で実習に臨む。 ・部分実習に向けて必要な準備を整える。				
授業計画	1. オリエンテーション 保育実習の流れについて				
	2. 保育実習の実習園について				
	3. 保育準備物の作成・準備 (1)				
	4. 保育準備物の作成・準備 (2)				
	5. 部分実習で用いる保育教材の作成(1)				
	6. 部分実習で用いる保育教材の作成(1)				
	7. 部分実習の指導案の作成(1)				
	8. 部分実習の指導案の作成(1)				
	9. 保育活動の発表(1)				
	10. 保育活動の発表(2)				
	11. 保育活動の発表(3)				
	12. 公文書(個人票・評価票・出勤簿・誓約書)の準備、実習生連絡票の作成				
	13. 保育活動の発表(4)				
	14. 保育実習の心構えについて				
	15. まとめ				
評価方法	授業内の課題・提出物、グループワークや発表により総合的に評価する。				
テキスト ※必ず購入	使用しない。				
参考書 ※必要に応じ購入	授業内で適宜紹介する。				
受講条件 ルール等					
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	実習準備物の作成や準備、部分実習で用いる保育教材や指導案の作成、保育活動発表の準備など、授業内での提出・発表期日に合わせて行うこと。				

科目名	保育実習指導Ⅱ(保育所)			Instruction of Childcare Training Ⅱ	
教員名	三 國 隆 子			授業区分	〈幼〉専門教育科目
年次配当	2年次前期後半(週2回)	単位数	1単位	選択・必修	選択／保資必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				○
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				◎
授業表題	保育実習Ⅱ(保育所)に向けての事前事後指導				
授業の 概要・目的	保育実習Ⅱ(保育所)の意義を理解し、実習に向けての準備や心構え、事後指導を行う。				
授業の 到達目標	・保育所における実習に向けて、自分の課題を明確にした上で実習に臨む。 ・責任実習に向けて必要な準備を整える。				
授業計画	1. オリエンテーション 保育実習Ⅰ事後指導(お礼状) 実習Ⅱの流れについて				
	2. 保育実習Ⅰ(保育所)の振り返り				
	3. 保育準備物の作成・準備(1)				
	4. 保育準備物の作成・準備(2)				
	5. 責任実習で用いる保育教材の作成(1)				
	6. 責任実習で用いる保育教材の作成(1)				
	7. 責任実習の指導案の作成(1)				
	8. 責任実習の指導案の作成(1)				
	9. 保育活動の発表(1)				
	10. 保育活動の発表(2)				
	11. 保育活動の発表(3)				
	12. 公文書(個人票・評価票・出勤簿・誓約書)の準備、実習生連絡票の作成				
	13. 保育活動の発表(4)				
	14. 保育実習の心構えについて				
	15. まとめ				
評価方法	授業内の課題・提出物、グループワークや発表により総合的に評価する。				
テキスト ※必ず購入	使用しない。				
参考書 ※必要に応じ購入	授業内で適宜紹介する。				
受講条件 ルール等	保育実習指導Ⅰ(保育所)を履修済みで、保育実習Ⅰ(保育所)の実習を終えていること。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	・実習準備物の作成や準備、部分実習で用いる保育教材や指導案の作成、保育活動発表の準備など、授業内での提出・発表期日に合わせて行うこと。 ・授業プリントの「本日の課題」を参照して、復習を行うこと。				

科目名	保育心理演習 Seminar in Childcare Psychology			
教員名	三 國 隆 子		授業区分	〈幼〉専門教育科目
年次配当	2年次後期	単位数	1単位	選択・必修 選択／保資必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			○
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			◎
授業表題	子どもの視点に立って子どもの「心」をとらえる。			
授業の 概要・目的	発達心理学、教育心理学の知識についてさらに理解を深め、子どもの視点から適切な発達援助の方法を学ぶ。			
授業の 到達目標	子どもを取り巻く様々な心理的課題について、「保育者として自分はどう対応するか」という発達援助の方法を身につける。			
授業計画	1. オリエンテーション グループ分け			
	2. 子どもを「理解する」ということはどういうことか(1)大人の視点			
	3. 子どもを「理解する」ということはどういうことか(2)子どもの視点			
	4. 乳児の世界の理解と発達支援の方法について(1)			
	5. 乳児の世界の理解と発達支援の方法について(2)			
	6. 乳児の世界の理解と発達支援の方法について(3)			
	7. 幼児の世界の理解と発達支援の方法について(1)			
	8. 幼児の世界の理解と発達支援の方法について(2)			
	9. 幼児の世界の理解と発達支援の方法について(3)			
	10. 保護者に対する支援について(1)			
	11. 保護者に対する支援について(2)			
	12. 事例から発達援助の方法を考えてみよう(1)グループワーク			
	13. 事例から発達援助の方法を考えてみよう(2)グループワーク			
	14. 子どもを理解する視点と発達援助の方法			
	15. まとめ			
評価方法	授業内の課題・提出物、グループワークへの参加(60%)、期末試験(40%)により総合的に評価する。			
テキスト ※必ず購入	使用しない。			
参考書 ※必要に応じ購入	授業内で適宜紹介する。			
受講条件 ルール等				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	授業で出される課題、グループワークの準備など、授業で行う期日に間に合うよう準備を進めること。 授業プリントの「本日の課題」を参照して、復習を行うこと。			

科目名	音楽基礎			Basic Music	
教員名	飯田・川崎・白坂			授業区分	〈幼〉 専門教育科目
年次配当	1 年次前期	単位数	1 単位	選択・必修	選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				◎
授業表題	ひきうたいの初歩				
授業の 概要・目的	ピアノ初心者のために、音楽Ⅰを始める前段階として、基礎部分を学ぶ				
授業の 到達目標	音楽Ⅱが終わった段階で22曲のクリアができるよう、数曲のレパートリー習得を目指す。				
授業計画	1. 授業内容の説明、個々の技術状況診断と課題曲決定				
	2. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
	3. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
	4. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
	5. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
	6. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
	7. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
	8. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
	9. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
	10. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
	11. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
	12. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
	13. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
	14. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
	15. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
評価方法	平常点。最終的なクリア曲数と曲の難易度、取り組みの積極性、努力状況。 音楽Ⅱでは、単位認定のため22曲以上のクリアが必要だが、音楽基礎についてはクリア曲数についての条件はない。音楽基礎でクリアした曲はクリア曲数に計上できる。				
テキスト ※必ず購入	プリント配布によるオリジナルテキスト。 20ポケット A4 サイズのクリアファイルを用意すること。 オリジナルテキスト終了後に教育出版「ポケットいっぱいうた」を使用。購入しておくこと。				
参考書 ※必要に応じ購入	特に指定しないが、CD などでも多くのこどものうたに触れ、曲の知識を広げておく事がおくことが望ましい。				
受講条件 ルール等	実技科目のため毎日の練習が必須なので、できれば自宅で練習できる環境のある事が望ましいが、難しい場合は学校の空き時間で毎日の練習時間を確保すること。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	これは実技である。毎日30分以上の練習は必須となる。				

科目名	音楽Ⅰ			Music I	
教員名	飯田・川崎・白坂・今野			授業区分	〈幼〉専門教育科目
年次配当	1 年次後期	単位数	1 単位	選択・必修	必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				○
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				◎
授業表題	こどものうた弾き歌い				
授業の 概要・目的	個人レッスン及び指摘された問題点を自習する時間を軸に、実践的なレッスンを行なう。 また、最終回には合奏なども含めた発表会を企画。音楽の楽しさに触れる。				
授業の 到達目標	こどもの歌を通じ、こどもたちに音楽の楽しさを伝えられる術を身につける事。 たくさんのこどものうた弾き歌いレパートリーを持つこと。				
授業計画	1. 授業内容の説明、個々の技術状況診断と課題曲決定				
	2. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
	3. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
	4. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
	5. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
	6. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
	7. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
	8. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
	9. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
	10. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
	11. 発表会準備レッスン、弾き歌い実技講習				
	12. 発表会準備レッスン、弾き歌い実技講習				
	13. 発表会準備レッスン				
	14. 発表会準備レッスン				
	15. 発表会				
評価方法	平常点。最終的なクリア曲数と曲の難易度、積極性、努力状況、発表会の演奏内容。 音楽Ⅱでは、単位認定のために音楽Ⅰと合わせて22曲以上のクリアが必要だが、音楽Ⅰの単位認定時についてはクリア曲数についての条件はない。				
テキスト ※必ず購入	教育出版「ポケットいっぱい」のうた」 及びプリント配布によるオリジナルテキスト。				
参考書 ※必要に応じ購入	特に指定しないが、CDなどで多くのこどものうたに触れ、曲の知識を広げておく事がおくことが望ましい。				
受講条件 ルール等	実技科目のため毎日の練習が必須なので、できれば自宅で練習できる環境のある事が望ましいが、難しい場合は学校の空き時間で練習すること。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	授業で指定された曲を練習する。 弾き歌いは実技であり、毎日練習しなければ上達は望めない。 毎週少なくとも1曲はクリアすることを念頭に、毎日30分以上練習すること。				

科目名	音楽Ⅱ			Music Ⅱ	
教員名	飯田・二木・今野			授業区分	〈幼〉 専門教育科目
年次配当	2 年次前期	単位数	1 単位	選択・必修	必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				○
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				◎
授業表題	こどものうた弾き歌い				
授業の 概要・目的	音楽Ⅰに引き続き、個人レッスン及び指摘された問題点を自習する時間を軸に、実践的なレッスンを行なう。				
授業の 到達目標	こどもの歌に通じ、こどもたちに音楽の楽しさを伝えられる術を身につける事。 たくさんのこどものうた弾き歌いレパートリーを持つこと。				
授業計画	1. 音楽Ⅰでの状況と、今後の目標確認、及びレッスン				
	2. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
	3. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
	4. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
	5. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
	6. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
	7. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
	8. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
	9. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
	10. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
	11. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
	12. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
	13. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
	14. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
	15. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
評価方法	平常点による。最終的なクリア曲数、クリア曲の難易度、取り組みの積極性、努力状況。 音楽Ⅰ、Ⅱでのクリア曲と合わせ、クリア曲数22を単位認定条件とする。 22曲には一曲以上のピアノ曲を含むこと。				
テキスト ※必ず購入	教育出版「ポケットいっぱい」のうた」。但しドレミ楽譜出版社「こどものうたベストテン」又は、音楽の友社「子どものうた弾き歌いベスト50」を既に所有する者は、これらで代用可能。 ただ「ポケットいっぱいの歌」は、良書として推薦。購入した場合は授業でも使用する。				
参考書 ※必要に応じ購入	特に指定しないが、CD などでも多くのこどものうたに触れ、曲の知識を広げておく事がおくことが望ましい。				
受講条件 ルール等	実技科目のため毎日の練習が必須なので、できれば自宅で練習できる環境のある事が望ましいが、難しい場合は学校での練習時間を確保すること。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	常に2曲程度を課題曲として持ち、毎週1曲クリアを目標として毎日30分以上練習する。				
科目名	音楽Ⅱ(再)			Music Ⅱ	

教員名	飯 田 俊 明			授業区分	〈幼〉 専門教育科目
年次配当	2 年次後期	単位数	1 単位	選択・必修	必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				○
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				◎
授業表題	こどものうた弾き歌い				
授業の 概要・目的	音楽Ⅱ受講で、単位認定に至らなかった学生を対象とした再履修クラス。 個人レッスン及び指摘された問題点を自習する時間を軸に、実践的なレッスンを行なう。				
授業の 到達目標	こどもの歌に通じ、こどもたちに音楽の楽しさを伝えられる術を身につける事。 たくさんのこどものうた弾き歌いレパートリーを持って卒業すること。				
授業計画	1. 授業内容の説明、個々の技術状況診断と課題曲決定				
	2. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
	3. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
	4. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
	5. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
	6. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
	7. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
	8. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
	9. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
	10. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
	11. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
	12. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
	13. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
	14. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
	15. 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習				
評価方法	平常点による。最終的なクリア曲数、クリア曲の難易度、取り組みの積極性、努力状況。 音楽Ⅰでのクリア曲と合わせ、クリア曲数22を単位認定条件とする。				
テキスト ※必ず購入	音楽Ⅰで指定したテキストを引き続き使用。場合により追加購入の場合がある。				
参考書 ※必要に応じ購入	特に指定しないが、CDなどで多くのこどものうたに触れ、曲の知識を広げておく事がおく ことが望ましい。				
受講条件 ルール等	実技科目のため毎日の練習が必須なので、できれば自宅で練習できる環境のある事が望 ましいが、難しい場合は学校での練習時間を確保すること。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	これは実技科目であり、事前の練習なしに授業参加はありえない。必ず、毎日30分程度 以上の練習すること。				

科目名	音楽Ⅲ			Music Ⅲ	
教員名	飯 田 俊 明			授業区分	〈幼〉 専門教育科目
年次配当	2 年次前期	単位数	1 単位	選択・必修	選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				○
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				◎
授業表題	バンド形式、またはアンサンブル形式による合奏				
授業の 概要・目的	ある程度の音楽技能を持った者を対象に、高い音楽性を学ぶ特別クラス				
授業の 到達目標	同時期に行なわれる「保育内容(表現)」と連動、こどもたちを集めた「ちいさなおんがくかい」において演奏面で中心的な役割を担う。				
授業計画	1. 授業内容説明。履修者の習得楽器状況の把握とアンサンブル計画相談				
	2. ネコバスのテーマ練習				
	3. オブラディオブラダ練習				
	4. 聖者の行進ヴァリエーション				
	5. 絵本「ガンピーさんのドライブ」用オリジナル音楽練習				
	6. 絵本「ガンピーさんのドライブ」用オリジナル音楽練習				
	7. 絵本「ガンピーさんのドライブ」用オリジナル音楽練習				
	8. 絵本「ガンピーさんのドライブ」用オリジナル音楽練習				
	9. 絵本「ガンピーさんのドライブ」用オリジナル音楽練習				
	10. ピアノコード奏法の基本				
	11. パソコンによる打ち込み音楽制作体験				
	12. 絵本「ガンピーさんのドライブ」用オリジナル音楽練習				
	13. 絵本「ガンピーさんのドライブ」用オリジナル音楽練習				
	14. 総仕上げ				
	15. 総仕上げゲネプロ				
評価方法	平常点による。演奏クオリティ、音楽性、音楽的アイデア力、学習に対する積極性 ちいさなおんがくかいにおける演奏内容				
テキスト ※必ず購入	こちらでプリントを用意するので、初日にクリアファイル(A4,20ポケット)を用意の事。 各自好きな色で購入してください。				
参考書 ※必要に応じ購入	ガンピーさんのドライブ、読み聞かせ用の CD を配布します。				
受講条件 ルール等	1.保育内容(表現)を同時履修すること。 2.ある程度演奏可能な楽器があること。 3.演奏楽器がピアノの場合は、こどものうたベストテンの「となりのトトロ」演奏可能程度が望ましい。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	配布された楽譜を元に、必ず個人練習をして授業に臨む必要がある。				

科目名	保育内容(表現) Childcare Content: Expression			
教員名	飯 田 俊 明		授業区分	〈幼〉 専門教育科目
年次配当	2 年次前期	単位数	1 単位	選択・必修 必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			○
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			◎
授業表題	子どもたちと音の楽しさを共有する			
授業の 概要・目的	音楽の楽しさを子どもたちと共有する術を、あくまで実践を通して習得して行く。			
授業の 到達目標	終日にはこどもたちを招いて「ちいさなおんがくかい」を主催、演奏を披露する。			
授業計画	1. 授業形態説明、楽器説明、導入			
	2. 音のトンネルを作る。オブラディオブラダ替え歌			
	3. 聖者の行進ヴァリエーション			
	4. キッチン de 音楽			
	5. 手遊び歌、先輩からのアドバイスから学ぶ。手影絵			
	6. 手影絵と音楽			
	7. 合唱レコーディング体験			
	8. 合唱レコーディング体験			
	9. 合唱レコーディング体験			
	10. ハンドベル&トーンチャイム合奏			
	11. ハンドベル&トーンチャイム合奏			
	12. ちいさなおんがくかいのための打ち合わせ			
	13. 総仕上げ			
	14. ゲネプロ			
	15. ちいさなおんがくかい			
評価方法	手遊びテスト、読み聞かせテストを授業内で一人ずつ行なう。平常点も加味する。 音楽をする上での能力、積極性、表現力、プロデュース能力、適応性、社会性。			
テキスト ※必ず購入	プリントを配布する。 クリアファイル(20ポケット、A4 サイズ)を購入し、初日に必ず持参する事。カラーは自由。			
参考書 ※必要に応じ購入				
受講条件 ルール等	クリアファイル(20ポケット、A4 サイズ)を購入して初日に臨むよう、くれぐれも注意。 また、毎回かならずこのファイルを持って受講すること。			
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	おんがくかいでの演奏練習を中心に、必要な練習を授業ごとに説明する。			

科目名	保育実習指導 I (保育所)			Instruction of Childcare Training I	
教員名	池 田 幸 代			授業区分	〈幼〉 専門教育科目
年次配当	1 年次後期	単位数	1 単位	選択・必修	選択／保資必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				○
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				◎
授業表題	保育実習 I (保育所) に向けての事前事後指導				
授業の 概要・目的	一連の実習の中の、保育実習 I (保育所) の意義を理解し、実習に向けての準備や心構え、実習での学びを深めるための事後指導を行う。				
授業の 到達目標	・保育所実習における実習に向けて、自分の課題を明確にした上で実習に臨む。 ・部分実習に向けて、必要な準備を整える。				
授業計画	1. オリエンテーション 保育実習の流れについて				
	2. 保育実習の実習園について				
	3. 保育準備物の作成・準備(1)				
	4. 保育準備物の作成・準備(2)				
	5. 部分実習と指導案について				
	6. 部分実習で用いる保育教材の作成(1)				
	7. 部分実習で用いる保育教材の作成(2)				
	8. 部分実習の指導案の作成(1)				
	9. 部分実習の指導案の作成(2)				
	10. 保育活動の発表(1)				
	11. 保育活動の発表(2)				
	12. 公文書(個人票・評価表・出勤簿・誓約書)の準備、実習生連絡票の作成				
	13. 保育活動の発表(3)				
	14. 保育活動の発表(4)				
	15. まとめ				
評価方法	授業内の課題・提出物、グループワークや発表により総合的に評価する。				
テキスト ※必ず購入	使用しない				
参考書 ※必要に応じ購入	『保育所保育指針』(フレーベル館・ISBN:9784577812419) その他、授業内で適宜紹介する。				
受講条件 ルール等					
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	実習準備物の作成や準備、部分実習で用いる保育教材の作成や指導案の作成、保育活動発表の準備など、授業内での提出・発表期日に合わせて行う事。				

科目名	保育内容総論			Childcare Content: General Remarks	
教員名	池 田 幸 代			授業区分	〈幼〉専門教育科目
年次配当	2 年次後期	単位数	1 単位	選択・必修	選択／保資必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				○
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				◎
授業表題	保育内容の総括				
授業の 概要・目的	保育内容各論である、「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の 5 領域の関連性を前提とし総合的に学び、またそれぞれの領域からの視点で子どもの活動を総合的に考える。				
授業の 到達目標	5 領域の保育内容について総合的に理解する。 子どもの発達の特長や発達過程を踏まえて、保育内容と子ども理解との関連を理解する。 現代の子どもを取り巻く諸問題について、自ら学び考える力を身につける。				
授業計画	1. オリエンテーション 保育内容とは				
	2. 保育所保育指針における保育の基本				
	3. 保育所保育指針における保育内容				
	4. 保育内容の変遷				
	5. 子どもの発達の特長と保育内容				
	6. 保育内容の領域「健康」				
	7. 保育内容の領域「人間関係」				
	8. 保育内容の領域「環境」				
	9. 保育内容の領域「言葉」				
	10. 保育内容の領域「表現」				
	11. 養護と保育の一体化とは				
	12. 環境を通じた保育				
	13. 保育者の役割				
	14. 現代の保育の課題				
	15. まとめ				
評価方法	授業内の課題・提出物、発言などの授業への意欲や積極性により、総合的に評価する。				
テキスト ※必ず購入					
参考書 ※必要に応じ購入	『保育所保育指針』（フレーベル館・ISBN:9784577812419） その他、授業内で適宜紹介する。				
受講条件 ルール等					
準備学習の （予習・復習） 内容と分量	子どもや保育に関する情報を、日常より意識的に取り入れること。				

科目名	保育課程論			Childcare Theory	
教員名	池 田 幸 代			授業区分	〈幼〉 専門教育科目
年次配当	2 年次前期	単位数	2 単位	選択・必修	選択／保資必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				○
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				◎
授業表題	保育の計画、実践、省察・評価、改善の過程と構造				
授業の 概要・目的	保育目標がどのように達成されていくか、見通しを持って編成される保育課程について学ぶ。また保育課程が日常の保育にどのように反映されていくか考える。				
授業の 到達目標	・保育課程の意義と内容について理解する。 ・指導計画の作成について学ぶ。 ・保育の省察・評価について理解する。				
授業計画	1. オリエンテーション				
	2. 保育の基本と計画				
	3. 保育計画の変遷				
	4. 保育所における保育課程				
	5. 保育課程の実施と指導計画の作成				
	6. 子どもの発達と指導計画の作成(乳児)				
	7. 子どもの発達と指導計画の作成(幼児)				
	8. 指導計画の実施発表(乳児)				
	9. 指導計画の実施発表(幼児)				
	10. 保育における省察・評価(1)				
	11. 保育における省察評価(2)				
	12. 地域とのつながり				
	13. 保護者とのつながり				
	14. 小学校への接続				
	15. まとめ				
評価方法	授業内の課題・提出物、発表等により、総合的に評価する。				
テキスト ※必ず購入					
参考書 ※必要に応じ購入	『保育所保育指針解説書』(フレーベル館・ISBN:9784577812426) その他、授業内で適宜紹介する。				
受講条件 ルール等					
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	疑問や理解できなかった点は、その日のうちに解決すること。				

科目名	保育相談支援			Support of Childcare Counseling	
教員名	音 山 若 穂			授業区分	〈幼〉 専門教育科目
年次配当	2 年次後期	単位数	1 単位	選択・必修	選択／保資必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				○
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				◎
授業表題	保育の専門性を省察する				
授業の 概要・目的	保育に関する専門的知識・技術や、倫理・価値等、子どもの保育に関しての専門性に基礎を置いた保育士の保護者支援について学ぶ。保育の専門性を生かした保護者への支援、ソーシャルワーク的機能の遂行のために、「個別援助技術(ソーシャルケースワーク)」についての基礎的な理解を得ることが目的である。				
授業の 到達目標	ソーシャルケースワークの基本的な考え方や、基礎的なスキルを身に着けることができる。				
授業計画	1. オリエンテーション 保育相談支援とは何か				
	2. 保育相談支援の意義 保護者への相談と保育の特性				
	3. 保育相談支援の基本(1) 子どもの最善の利益				
	4. 保育相談支援の基本(2) 子どもの成長・発達				
	5. 保育相談支援の基本(3) 保護者の養育力向上				
	6. 保育相談支援の基本(4) 信頼関係を基本とした対人援助				
	7. 保育相談支援の基本(5) 地域資源				
	8. 保育相談支援の実際(1) 保育と保護者支援				
	9. 保育相談支援の実際(2) 内容・方法				
	10. 保育相談支援の実際(3) 計画と評価				
	11. 児童福祉施設における保育相談支援(1) 保育所の支援				
	12. 児童福祉施設における保育相談支援(2) 特別支援				
	13. 児童福祉施設における保育相談支援(3) 要保護児童・障害児施設等				
	14. 保育士の資質とその向上(期末レポート課題の検討)				
	15. まとめと解説 全体を通しての議論				
評価方法	毎時間に示される課題(60%)、および期末レポート(40%)				
テキスト ※必ず購入	「保育相談支援」大島恭二・金子恵美編著 建帛社				
参考書 ※必要に応じ購入	授業中に指示				
受講条件 ルール等	特になし				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	各回とも、事例検討が含まれるので、事例を理解し自分なりの考えや意見をまとめるための予習(2時間)、および授業後の振り返りとまとめのための時間(2時間)が必要。				

科目名	情報処理演習			Computer Literacy	
教員名	東 浩一郎			授業区分	〈幼〉 専門教育科目
年次配当	2 年次通年	単位数	2 単位	選択・必修	選択／幼免必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				◎
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				○
授業表題	保育事例で学ぶパソコン操作				
授業の 概要・目的	実際の保育現場を想定し、そこで求められるパソコンの知識と技能について学習します。使用するソフトは、ワード(ワープロソフト)、エクセル(表計算ソフト)、パワーポイント(プレゼンテーションソフト)です。				
授業の 到達目標	① ワードを使って、視覚的なお便りを作成できるようになる ② エクセルを使って、児童台帳を作成できるようになる ③ パワーポイントを使って、クラス紹介ができるようになる				
授業計画	1. オリエンテーション		16. スキルチェックと指導		
	2. PC でできること		17. エクセルの基本機能		
	3. 日本語入力の基礎		18. 表計算機能の基礎		
	4. 日本語入力の基礎		19. グラフ機能の基礎		
	5. 文字の編集		20. データベース機能の基礎		
	6. 段落の編集		21. 児童台帳の作成		
	7. 簡単な文書を作ってみよう		22. 身体計測記録台帳の作成		
	8. 表機能 1		23. エクセルのまとめ		
	9. 表機能 2		24. パワーポイントを見ている		
	10. 図形機能 1		25. パワーポイントを使ったスライド作成 1		
	11. 図形機能 2		26. パワーポイントを使ったスライド作成 2		
	12. かんたんなお便りの作成		27. MOS 対策		
	13. イラスト入りお便りの作成		28. Word で月案作成		
	14. 定型文書のきまり		29. Word で招待状作成		
	15. ワードのまとめとエクセルについて		30. 全体まとめ		
評価方法	定期試験および作成した課題による総合評価				
テキスト ※必ず購入	阿部正平ほか『保育者のためのパソコン講座』(萌文書林・9784893471901)				
参考書 ※必要に応じ購入	なし				
受講条件 ルール等	毎回課題を作成するので遅刻は厳禁です。遅刻者のために再度説明することはできないので、気を付けてください。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	時間内に課題が仕上がらなかった場合、各自で翌週までに仕上げておいてください。授業で取り扱った範囲は、適宜授業掲示板にアップします。				
科目名	教育相談		Counseling in Education		

教員名	飯 田 宮 子			授業区分	〈幼〉 専門教育科目
年次配当	2 年次前期	単位数	2 単位	選択・必修	選択／幼免必修／保資選必
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				○
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				◎
授業表題	傾聴と受容の大切さ				
授業の 概要・目的	この授業では保育現場で必要とされるカウンセリングマインドについて学ぶ。事例を通して子どもの心・親の心を理解し、援助するためのカウンセリングマインドを学ぶ。				
授業の 到達目標	聞くことの大切さを学ぶ。				
授業計画	1. 幼児保育とカウンセリングマインド				
	2. 幼児保育における子ども理解				
	3. ・子どものなかの乳児性				
	4. ・子どもにとっての母子関係と父子関係				
	5. ・次に生まれてくる赤ちゃんへの子どもの気持ち				
	6. ・遊びから子ども集団への参加				
	7. ・母子家庭の子どもの父親イメージ				
	8. ・離婚に出会う子ども				
	9. 保育所・幼稚園の先生であることと子どもの係わりー転移と逆転移				
	10. ・母親から離れられず登園拒否のSちゃん				
	11. ・友達と関われないO君				
	12. ・集団活動に参加しないA君				
	13. ・知的な発達に遅れがみられるC君				
	14. ・吃音に悩むSちゃん				
	15. 保護者に対するカウンセリング的アプローチ				
評価方法	通常の学習態度(出席状況と授業参加態度)および筆記試験により評価する。				
テキスト ※必ず購入	参考文献コピーを配布する。				
参考書 ※必要に応じ購入	『幼児保育とカウンセリングマインド』氏原寛 東山紘久編著 ミネルヴァ書房 『カウンセリングマインドの探求 子どもを育ちを支えるために』柴崎正行他 フレーベル館				
受講条件 ルール等	出席重視				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	授業内容(キーワード)を復習する。 前回の授業内容を小テストにて確認する				

科目名	相談援助			Support of Counseling	
教員名	朴 美 京			授業区分	〈幼〉 専門教育科目
年次配当	2 年次後期	単位数	1 単位	選択・必修	選択／保資必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				○
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				◎
授業表題	相談援助				
授業の 概要・目的	ソーシャルワークを行う際に用いる方法・技術に加えてその方法・技術を支える価値や倫理、理論を含めて学ぶ。その際、講義形式だけではなく、授業で学んだ援助技術をどのように実践すればいいのかを受講生自らが考える機会とするために、事例研究やグループワークを用いる。				
授業の 到達目標	1. ソーシャルワークの理念と意義を理解する 2. ソーシャルワークにおける価値を理解する 3. 相談援助における人と環境の交互作用に関する理念について理解する				
授業計画	1. オリエンテーション				
	2. 相談援助の概念と範囲				
	3. 相談援助実践モデルとアプローチ				
	4. 相談援助のプロセス				
	5. 相談援助のあゆみ				
	6. 個別援助技術				
	7. 集団援助技術				
	8. 地域援助技術				
	9. 社会福祉調査法				
	10. 事例検討①				
	11. 事例検討②				
	12. 事例検討③				
	13. 事例検討④				
	14. 事例検討⑤				
	15. まとめ				
評価方法	・課題レポート(60%) ・授業態度・発表・参加度(40%)				
テキスト ※必ず購入	毎回レジюмеと必要な資料を配布します				
参考書 ※必要に応じ購入	・森本美絵・向井通郎「保育士をめざす人への社会福祉援助技術」ふくろう出版 ・小林育子、日高洋子「保育者のための相談援助」萌文書林 2011 ・森井利夫「社会福祉援助技術―ソーシャルワーク入門」学文社				
受講条件 ルール等	・遅刻、早退(授業中の出入り)はやむを得ないときに限ります ・授業では自分の意見を大切にするとともに、他者の意見を大切にしよう心がけてください				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	予習―授業計画を必ず読んでおくこと。初めて接する専門用語がたくさん出てくるので予習をしてほしい。 復習―講義で使用したプリント・資料を必ず再読すること。				

科目名	地域福祉 Community-Based Social Services			
教員名	朴 美 京		授業区分	〈幼〉専門教育科目
年次配当	1 年次前期	単位数	2 単位	選択・必修 選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			○
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			◎
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			
授業表題	地域福祉			
授業の 概要・目的	地域住民の生活実態、それに対する制度や政策の現実を検討する			
授業の 到達目標	1. 地域福祉の基本的な考え方を理解する 2. 地域福祉の歴史・理念・その方法などについて理解する 3. 地域福祉にかかわる行政機関と民間組織の役割と機能について学ぶ			
授業計画	1. オリエンテーション			
	2. 現代社会におけるコミュニティと地域福祉			
	3. 地域福祉の理念とその展開			
	4. 地域福祉の歴史1－欧米の歴史を中心に			
	5. 地域福祉の歴史2－日本の歴史を中心に			
	6. 地域福祉のサービス体系			
	7. 地域福祉の推進方法1－コミュニティワーク・地域福祉計画			
	8. 地域福祉の推進方法2－福祉教育・地域福祉の財源			
	9. 地域福祉の実践1－社会福祉協議会・社会福祉法人など			
	10. 地域福祉の実践2－特定非営利法人の役割と実際、ボランティア活動など			
	11. 地域福祉の実践3－地域住民を主体として活動の事例から			
	12. 地域福祉の援助活動			
	13. これからの地域福祉			
	14. まとめ1			
	15. まとめ2			
評価方法	・課題レポート(20%) ・定期試験(60%) ・授業態度・授業参加度(20%)			
テキスト ※必ず購入	毎回レジюмеと必要な資料を配布します			
参考書 ※必要に応じ購入	・野口定久「地域福祉論－政策・実践・技術の体系」ミネルヴァ書房 ・藤松康子編「現代地域福祉論」			
受講条件 ルール等	・遅刻、早退(授業中の出入り)はやむを得ないときに限ります ・積極的な態度で授業に臨んでください			
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	・地域福祉の推進機関の基礎知識を確認しておくこと ・地域福祉に関連する新聞、雑誌等から情報収集に努めること ・講義時に示す課題に取り組むこと			
科目名	教育心理学 I		Educational Psychology I	

教員名	長 澤 里 絵			授業区分	〈幼〉 専門教育科目
年次配当	2 年次後期	単位数	2 単位	選択・必修	選択／幼免必修／保資選必
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				○
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				◎
授業表題	子どもの理解と教育				
授業の 概要・目的	認知的発達を始めとした多くの視点から子どもの理解を深めます。人と教育のかかわりを心理学の立場から学びます。				
授業の 到達目標	教育の効果・学習の効果について学び、子どもの心と教育のかかわりについて理解できるようになる。				
授業計画	1. オリエンテーション 教育心理学とは				
	2. 発達(1)				
	3. 発達(2)				
	4. 発達(3)				
	5. 学習				
	6. 動機づけ(1)				
	7. 動機づけ(2)				
	8. 記憶				
	9. 知能				
	10. パーソナリティ				
	11. 学級集団(1)				
	12. 学級集団(2)				
	13. 心の問題と発達障害(1)				
	14. 心の問題と発達障害(2)				
	15. まとめ				
評価方法	定期試験および積極的に授業に取り組む姿勢により総合的に評価します。 ただし、2/3 以上出席しなければ成績評価できません。				
テキスト ※必ず購入	『スタンダード教育心理学 ライブラリ スタンダード心理学6』 服部 環, 外山美樹 編 サイエンス社 ISBN: 978-4-7819-1325-4				
参考書 ※必要に応じ購入					
受講条件 ルール等	授業時の私語は授業妨害となるので厳禁とします。 受講ルール・マナーがあまりにも守られない場合は退室を命じます。なおその場合は欠席となります。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	授業で取り上げた重要な理論の基本的な考え方、重要な概念や用語について復習しておくこと。				
科目名	保育実践演習			Seminars for Practical Childcare	

教員名	池 田 幸 代			授業区分	〈幼〉 専門教育科目
年次配当	2 年次通年	単位数	2 単位	選択・必修	選択／保資必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				○
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				◎
授業表題	保育者になるにあたって必要な、総合的かつ実践的な学習				
授業の 概要・目的	これまでの実習を含むすべての学習を通して、保育者として必要な知識・技能を習得したことを確認する。				
授業の 到達目標	・保育に関する総合的な学習能力を身に付ける。 ・保育における諸課題について、対応・解決する方法を考察し、学びを深める。 ・現代の保育における課題について、分析・考察・検討ができる。				
授業計画	1. オリエンテーション		16. 保育者に必要な資質・能力(1)		
	2. これまでの学習・実習を振り返る(1)		17. 保育者に必要な資質・能力(2)		
	3. これまでの学習・実習を振り返る(2)		18. 現代の保育者の役割(1)		
	4. これまでの学習・実習を振り返る(3)		19. 現代の保育者の役割(2)		
	5. 現代の保育の問題について(1)		20. 現代の保育者の役割(3)		
	6. 現代の保育の問題について(2)		21. ロールプレイ(保護者対応)		
	7. 現代の保育の問題について(3)		22. ロールプレイ(子どもの人間関係)		
	8. グループワーク(1)		23. ロールプレイ(保育者の連携)		
	9. グループワーク(2)		24. 子どもの遊びを発展させる保育		
	10. グループワーク(3)		25. グループワーク(1)		
	11. 発表(1)		26. グループワーク(2)		
	12. 発表(2)		27. グループワーク(3)		
	13. 発表(3)		28. 発表(1)		
	14. 今後の保育の課題と解決法		29. 発表(2)		
	15. まとめ		30. 発表(3)		
評価方法	授業内の課題・提出物、グループワークや発表により総合的に評価する。				
テキスト ※必ず購入					
参考書 ※必要に応じ購入	授業内で適宜紹介する。				
受講条件 ルール等	これまでの実習日誌を読み返し、振り返りを行っておくこと。 受け身の姿勢ではなく、自ら積極的に授業に参加すること。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量					

科目名	社会福祉 Introduction to Social Weifare			
教員名	前 嶋 元		授業区分	〈幼〉 専門教育科目
年次配当	1 年次前期	単位数	2 単位	選択・必修 必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			○
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			◎
授業表題	社会福祉の概論を学ぶ			
授業の 概要・目的	社会福祉は「人が豊かな社会生活を送れるように、さまざまな方法で支援すること」である。本科目では、保育士に求められる社会福祉に関する基礎知識(理念、歴史、制度、機関と施設、分野と担い手)を身につけていく。			
授業の 到達目標	社会福祉の概要(理念と歴史)を説明できるようになる。 日本における社会福祉の制度についてを説明できるようになる。 日本における社会福祉の分野とその担い手について説明できるようになる。			
授業計画	1. オリエンテーション、社会福祉とは？			
	2. 社会福祉を取り巻く環境			
	3. 社会福祉の歴史			
	4. 社会福祉の仕組み(法と行財政)			
	5. 社会福祉サービスの利用の仕組み			
	6. 社会福祉の機関と施設(学外授業予定)			
	7. 社会保障			
	8. 社会福祉の分野とその担い手①(低所得者福祉)			
	9. 社会福祉の分野とその担い手②(児童家庭福祉)			
	10. 社会福祉の分野とその担い手③(高齢者福祉)			
	11. 社会福祉の分野とその担い手④(障害者福祉)			
	12. 社会福祉の分野とその担い手⑤(地域福祉)			
	13. 利用者保護制度			
	14. 社会福祉援助技術(外部講師予定)			
	15. まとめ			
評価方法	期末試験(80%)および振り返りシート・課題シート等の提出物と受講態度(20%)により評価する。なお、出席回数が3分の2に満たない場合は、成績評価の対象とならない。			
テキスト ※必ず購入	石田慎二/山縣文治編著『新・プリマーズ/保育/福祉 社会福祉[第4版]』ミネルヴァ書房			
参考書 ※必要に応じ購入	授業時に適宜紹介する。			
受講条件 ルール等	自らの学びの目的を明確にして受講してほしい。また、受講の際、私語や態度等、他者への配慮も忘れないでほしい。			
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	1. 新聞に目を通すなどして、社会福祉に関する話題に日頃から興味をお持ち下さい。 2. 高校までの社会科(公民分野)の授業で学んだ内容を復習しておく、より理解が深まります。			

科目名	社会的養護			Content of Social Care	
教員名	前 嶋 元			授業区分	〈幼〉 専門教育科目
年次配当	1 年次後期	単位数	2 単位	選択・必修	選択／保資必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				○
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				◎
授業表題	社会的養護の仕組みと考え方を学ぶ				
授業の 概要・目的	保育士は、保育所保育士だけでなく、施設保育士（児童養護施設や乳児院、障害児入所施設等）としても活躍できる資格である。本科目では、保育所以外の児童福祉施設等における児童の養護について学んでいく。				
授業の 到達目標	日本における 社会的養護の仕組み（体系と制度）の概要を説明できる。 日本における児童福祉施設の種類とその機能および役割について説明できる。 これらを踏まえて、社会的養護の意義と課題について私見を述べられるようになる。				
授業計画	1. オリエンテーション、社会的養護とは何か？				
	2. 子どもの養護の歴史				
	3. 子どもの権利①（命と向き合う）				
	4. 子どもの権利②（子ども主体）				
	5. 社会的養護の仕組み①（体系）				
	6. 社会的養護の仕組み②（制度）				
	7. 施設養護の機能と役割				
	8. 施設養護の基本原理				
	9. 児童養護施設での子どもの生活とその支援の理解				
	10. 乳児院での子どもの生活とその支援の理解				
	11. 障害児入所施設（肢体不自由児施設）での子どもの生活とその支援の理解				
	12. 障害児入所施設（知的障害児施設）での子どもの生活とその支援の理解				
	13. 児童福祉施設の設備および運営基準				
	14. 近年の政策動向				
	15. まとめ				
評価方法	期末試験（80％）および振り返りシート・課題シート等の提出物と受講態度（20％）により評価する。なお、出席回数が3分の2に満たない場合は、成績評価の対象とならない。				
テキスト ※必ず購入	小池由佳/山縣文治編著『新・プリマーズ/保育/福祉 社会的養護[第3版]』ミネルヴァ書房				
参考書 ※必要に応じ購入	授業時に適宜紹介する。				
受講条件 ルール等	自らの学びの目的を明確にして受講してほしい。また、受講の際、私語や態度等、他者への配慮も忘れないでほしい。				
準備学習の （予習・復習） 内容と分量	1. 「社会福祉」で学んだ事項をよく復習した上で、授業に望んで下さい。 2. 本科目では、施設実習に望むにあたり最低限必要とされる基礎的な知識を習得していただけるように、授業中、指示されたテキストや資料などにも目を通すようにしてください。				

科目名	保育実習指導Ⅰ（施設）			Instruction of Childcare Training Ⅰ	
教員名	前 嶋 元			授業区分	〈幼〉専門教育科目
年次配当	2年次前期	単位数	1単位	選択・必修	選択／保資必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				○
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				◎
授業表題	施設実習Ⅰに向けての準備学習				
授業の 概要・目的	施設実習Ⅰの意義と目標を理解し、施設で暮らす利用児・者の生活と個の理解、職員の行う支援内容について学んでいく。これらのことを通して、実習に臨む上で求められる基本的な知識と技術を身に付けていく。				
授業の 到達目標	施設実習Ⅰの意義と目標を理解する。 施設の利用児・者の生活と個の理解、職員の行う支援内容を理解する。 施設実習Ⅰにおける自らの課題を明確に設定できるようになる。				
授業計画	1. オリエンテーション、施設実習Ⅰの意義と目標				
	2. 施設の日（利用児・者、職員）				
	3. 施設で暮らす利用児・者				
	4. 施設職員の種類と役割				
	5. 職員が行う支援の具体的内容				
	6. 児童養護施設・乳児院における実習の実際（外部講師予定）				
	7. 障害児入所施設における実習の実際（外部講師予定）				
	8. 児童発達支援センターにおける実習の実際（外部講師予定）				
	9. 守秘義務とプライバシーの保護				
	10. 実習日誌の書き方①（記録の意義）				
	11. 実習日誌の書き方②（目的と課題の明確化）				
	12. 実習日誌の書き方③（日々の記録）				
	13. 実習日誌の書き方④（まとめ）				
	14. 実習生としての心構え・準備				
	15. まとめ				
評価方法	提出課題、受講態度、実習へ向けての準備状況において総合的に評価する。				
テキスト ※必ず購入	使用しない。				
参考書 ※必要に応じ購入	授業時に適宜紹介する。				
受講条件 ルール等	自らの学びの目的を明確にして受講してほしい。また、受講の際、私語や態度等、他者への配慮も忘れないでほしい。実習の欠席は実習や資格取得に対する意欲の著しい欠如と判断し、実習への参加を認めない事由となるので、あらかじめ留意して受講してほしい。				
準備学習の （予習・復習） 内容と分量	1. 社会的養護で学んだ内容をよく復習して、授業に臨んでください。 2. 書類や課題の作成は必ず提出期限を守るように計画的に取り組んでください。				

科目名	社会的養護内容			Contents of Nursing	
教員名	前 嶋 元			授業区分	〈幼〉 専門教育科目
年次配当	2 年次前期	単位数	1 単位	選択・必修	選択／保資必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				○
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				○
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				
授業表題	社会的養護の内容(支援の実際)を学ぶ				
授業の 概要・目的	「社会的養護」で学んだ内容が施設での職員による日常的支援、専門的援助にどのように生かされているのか、その方法と制度の運用について実践的に学んでいく。				
授業の 到達目標	施設で暮らす子どもたちの日常がイメージできるようになる。 施設職員の日常的支援と専門的援助の実際についてイメージできるようになる。 社会的養護の制度やサービスがどのように運用されているのかイメージできるようになる。				
授業計画	1. オリエンテーション、改めて社会的養護とは(復習)？				
	2. 子どもの権利と施設養護				
	3. 施設養護の役割				
	4. 自立支援計画				
	5. 個別の支援計画				
	6. 社会的養護とソーシャルワーク				
	7. 事例分析の意義と方法				
	8. 日常生活支援の実際(事例①)				
	9. 自立支援の実際 (事例②)				
	10. 治療的・支援的援助の実際(事例③)				
	11. 親子との関係調整の実際(事例④)				
	12. 地域支援の実際(事例⑤)				
	13. 保育士の専門性とその役割				
	14. 近年における社会的養護の動向と今後の展望				
	15. まとめ				
評価方法	期末試験(50%)および提出物(振り返りシート、事例分析シート等)と受講態度(50%)により評価する。なお、出席回数が3分の2に満たない場合は、成績評価の対象とならない。				
テキスト ※必ず購入	昨年度の「社会的養護」のテキスト(小池由佳/山縣文治編著『新・プリマーズ/保育/福祉 社会的養護[第3版]』ミネルヴァ書房)を引き続き使用する。※昨年度「社会的養護」未受講者は購入してください。				
参考書 ※必要に応じ購入	授業時に適宜紹介する。				
受講条件 ルール等	自らの学びの目的を明確にして受講してほしい。また、受講の際、私語や態度等、他者への配慮も忘れないでほしい。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	1. 「社会的養護」で学んだ、施設や機関の名称と機能について最低限理解して授業に臨んでください。 2. 演習には、主体性をもって積極的に参加してください。				

科目名	児童家庭福祉			Child Welfare	
教員名	前 嶋 元			授業区分	〈幼〉 専門教育科目
年次配当	2 年次後期	単位数	2 単位	選択・必修	選択／保資必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				○
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				◎
授業表題	子ども家庭福祉の概論を学ぶ				
授業の 概要・目的	児童家庭福祉の理念、歴史、制度、サービスに関する基礎的な知識を身に付ける。				
授業の 到達目標	児童家庭福祉の理念とその歴史について説明できるようになる。 児童家庭福祉の制度やサービスについて説明できるようになる。 児童家庭福祉の分野における近年の課題について説明できるようになる。				
授業計画	1. オリエンテーション、児童家庭福祉とは？				
	2. 児童家庭福祉を取り巻く状況				
	3. 児童家庭福祉の歴史				
	4. 児童家庭福祉行政のしくみ				
	5. 児童家庭福祉の機関と施設				
	6. 健全育成サービス (外部講師予定)				
	7. 母子保健サービス				
	8. 保育サービス				
	9. 要養護児童への福祉サービス				
	10. 障害児福祉サービス				
	11. 少年非行への対応				
	12. ひとり親家庭への福祉サービス				
	13. 子ども虐待①児童虐待の現状と課題				
	14. 子ども虐待②児童虐待を防ぐために				
	15. まとめ				
評価方法	期末試験(80%)および振り返りシート・課題シート等の提出物と受講態度(20%)により評価する。なお、出席回数が3分の2に満たない場合は、成績評価の対象とならない。				
テキスト ※必ず購入	福田公教/山縣文治編著『新・プリマーズ/保育/福祉 児童家庭福祉[第4版]』ミネルヴァ書房				
参考書 ※必要に応じ購入	授業時に適宜紹介する。				
受講条件 ルール等	自らの学びの目的を明確にして受講してほしい。また、受講の際、私語や態度等、他者への配慮も忘れないでほしい。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	1. 新聞に目を通すなどして児童家庭福祉に関する話題に、関心をもって下さい。 2. 本科目は、子ども家庭福祉の総まとめとしての位置づけになりますので、これまでの学習した福祉に関する内容をよく復習して授業に臨んでください。				

科目名	家庭支援論			Family Support Theory	
教員名	前 嶋 元			授業区分	〈幼〉 専門教育科目
年次配当	2 年次後期	単位数	2 単位	選択・必修	選択／保資必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				○
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				◎
授業表題	家庭と保護者に対する支援について学ぶ				
授業の 概要・目的	現代社会における家庭の現状を理解した上で、子育てを行う家庭に対して、保育士として個々の家庭のニーズに応じた支援ができるようになるために必要な基礎的知識を身につける。				
授業の 到達目標	「子育て」と「家庭」の関係性について大まかに説明できる。 支援が求められる子育て家庭について具体的にイメージできるようになる。 家庭支援の方法について説明できるようになる。				
授業計画	1. オリエンテーション、家庭支援とは？				
	2. 子育て家庭を取り巻く状況				
	3. 家庭支援を行う上での基本姿勢				
	4. 家庭支援の具体的方法				
	5. 子ども、保護者の気持ちを考える				
	6. 支援における環境調整の意義を考える				
	7. 様々な家庭支援のニーズ				
	8. 保育所・幼稚園における家庭支援				
	9. ひとり親家庭の子どもとその家庭への支援				
	10. 障害児とその家庭への支援				
	11. 要保護児童(非虐待児等)とその家庭への支援				
	12. 在宅で子育てを行う家庭への支援				
	13. 施設入所児童の家庭復帰へ向けた支援				
	14. 家庭支援の実際(外部講師予定)				
	15. まとめ				
評価方法	期末試験(50%)および提出物(振り返りシート、事例分析シート等)と受講態度(50%)により評価する。なお、出席回数が3分の2に満たない場合は、成績評価の対象とならない。				
テキスト ※必ず購入	使用しない。				
参考書 ※必要に応じ購入	授業時に適宜紹介する。				
受講条件 ルール等	自らの学びの目的を明確にして受講してほしい。また、受講の際、私語や態度等、他者への配慮も忘れないでほしい。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	「社会福祉」や「社会的養護」で学んだ内容(特に子どもとその家庭への支援の現状と課題等)をよく復習した上で授業に臨んでください。				

科目名	保育実習指導Ⅱ(施設)			Instruction of Childcare Training Ⅱ	
教員名	前 嶋 元			授業区分	〈幼〉専門教育科目
年次配当	2年次後期	単位数	1単位	選択・必修	選択／保資必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				○
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				◎
授業表題	施設実習Ⅱに向けての準備学習				
授業の 概要・目的	施設実習Ⅱの意義と目標を理解し、利用児・者のニーズの理解とそれに基づいた個別の支援計画、職員の専門的支援内容について学んでいく。これらのことを通して、実習に臨む上で求められる基本的な知識と技術を身に付けていく。				
授業の 到達目標	施設実習Ⅱの意義と目標を理解する。 施設の利用児・者のニーズの理解とそれに基づいた個別の支援計画、職員の専門的支援内容にを理解する。 施設実習Ⅱにおける自らの課題を明確に設定できるようになる。				
授業計画	1. オリエンテーション、施設実習Ⅱの意義と目標				
	2. 利用児・者のニーズの理解				
	3. 個に応じた支援と個別の支援計画				
	4. 職員の専門的な支援(学外授業予定)				
	5. 実習事例①児童養護施設				
	6. 実習事例②乳児院				
	7. 実習事例③障害児入所施設				
	8. 実習事例④障害者支援施設				
	9. 実習事例⑤障害福祉サービス事業所				
	10. 実習事例⑥児童発達支援センター				
	11. 実習事例⑦児童館				
	12. 実習日誌①(行動観察と振り返り)				
	13. 実習日誌②(まとめ)				
	14. 実習生としての心構え・準備				
	15. まとめ				
評価方法	提出課題、受講態度、実習へ向けての準備状況において総合的に評価する。				
テキスト ※必ず購入	使用しない。				
参考書 ※必要に応じ購入	授業時に適宜紹介する。				
受講条件 ルール等	自らの学びの目的を明確にして受講してほしい。また、受講の際、私語や態度等、他者への配慮も忘れないでほしい。実習の欠席は実習や資格取得に対する意欲の著しい欠如と判断し、実習への参加を認めない事由となるので、あらかじめ留意して受講してほしい。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	1. 施設実習Ⅰを通して学んだ内容をよく復習し自らの課題を明確にしておいてください。 2. 書類や課題の作成は必ず提出期限を守るように計画的に取り組んでください。				

科目名	児童福祉援助技術 Child Welfare--Support & Technique			
教員名	前 嶋 元		授業区分	〈幼〉専門教育科目
年次配当	1 年次後期	単位数	2 単位	選択・必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			○
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			◎
授業表題	児童家庭福祉領域におけるソーシャルワーク			
授業の 概要・目的	保育者に求められる社会福祉援助技術(ソーシャルワーク)の基礎的な理論や技法を演習を通して、体験的に理解する。			
授業の 到達目標	ソーシャルワークの視点が保育者に求められる理由を説明できる。 児童家庭福祉領域におけるソーシャルワーク実践の概要について説明できるようになる。 保育者に必要とされるソーシャルワーク実践が行えるようになる。			
授業計画	1. オリエンテーション、アイスブレイキング			
	2. 社会福祉援助技術(ソーシャルワーク)の概要			
	3. 専門職の価値と倫理			
	4. 自己理解①(20の私)			
	5. 自己理解②(20の私の分析と自己紹介シートの作成)			
	6. 自己理解③(自己紹介シートの作成と分析)			
	7. 自己理解と他者理解①(自己紹介)			
	8. 自己理解と他者理解②(振り返り)			
	9. ケースワークの概要			
	10. ケースワークの実際			
	11. グループワークの概要			
	12. グループワークの実際			
	13. コミュニティワークの概要			
	14. コミュニティワークの実際			
	15. まとめ			
評価方法	受講態度(授業への参加度と貢献度等)(50%)および提出物(振り返りシート等)により評価する。なお、出席回数が3分の2に満たない場合は、成績評価の対象とならない。			
テキスト ※必ず購入	使用しない。			
参考書 ※必要に応じ購入	授業時に適宜紹介する。			
受講条件 ルール等	自らの学びの目的を明確にして受講してほしい。また、受講の際、私語や態度等、他者への配慮も忘れないでほしい。			
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	1. ほぼ毎回演習活動を行います。主体性をもって積極的に参加してください。 2. 授業で学んだ内容を日常生活の中で意識し、実践、応用してみると、より理解が深まると思います。			

科目名	教育原理			Principles of Pedagogy	
教員名	大 岡 紀理子			授業区分	〈幼〉 専門教育科目
年次配当	1 年次後期	単位数	2 単位	選択・必修	必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				○
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				◎
授業表題	「教育」とは何か				
授業の 概要・目的	「教育とは何か」、「教育は何をめざすか」という教育の意義や目的、人間の成長・発達について、基本的な内容を理解する。日本及び西洋における教育の理念や思想の歴史的変遷を踏まえるとともに、主要な教育思想や教育観について理解を深める。そして、現在の日本の教育について多様な観点から考察する。				
授業の 到達目標	教職を目指す者に必要とされる、教育の基礎的概念・理論・歴史・思想等について学び、教育の意義・目的を理解する。そして、現在の教育の諸課題に関する基礎的な内容について、理解することを目標とする。これらの基礎を理解した上で、教育の諸課題について多様な観点から考察を深める。				
授業計画	1. オリエンテーション(本講義の目的及び概要)				
	2. 教育の意義と目的				
	3. 諸外国の教育理論				
	4. 日本の教育理論				
	5. 教育の歴史(1) (「子どもの誕生」)				
	6. 教育の歴史(2) (家庭教育・学校教育)				
	7. 日本の教育の歴史				
	8. 教育に関する思想(1) (コメニウス～ペスタロッチ)				
	9. 教育に関する思想(2) (フレーベル～モンテッソーリ)				
	10. 教育の制度				
	11. 教育の内容・方法				
	12. 現代社会の教育(1) (求められる教師と教員評価)				
	13. 現代社会の教育(2) (日本の教育改革動向)				
	14. 現代社会と教育(3) (諸外国の教育改革動向)				
	15. まとめ				
評価方法	筆記試験・提出物・授業態度等を総合的に評価する。				
テキスト ※必ず購入	湯川次義編著『新編 よくわかる教育の基礎』(学文社)				
参考書 ※必要に応じ購入	講義の際に適宜紹介する。				
受講条件 ルール等	受講者には大学より示されている基本的ルールを守りながら、積極的な授業参加を望む。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	事前学習としては、講義で扱うテーマに関してテキストを参考に自分なりに考えてくる。 事後学習としては、講義で扱ったテーマに関してテキストやプリント、ノート等を用いて自分の言葉でまとめることができるようにする。				

科目名	幼児理解 Understanding of children			
教員名	大 岡 紀理子		授業区分	〈幼〉専門教育科目
年次配当	2 年次前期	単位数	2 単位	選択・必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			○
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			◎
授業表題	幼児理解とは			
授業の 概要・目的	子どもの成長・発達を理解し、個々の子どもに適した対応ができる保育者が必要とされる。そのため本講義では、具体的事例等を用いて保育者の専門性を考える。			
授業の 到達目標	子どもの視座や保護者の立場に立った理解のあり方を身につけるとともに、自分の子ども観や保育観をより深め、信頼される保育者になることを目指す。			
授業計画	1. オリエンテーション(本講義の目的及び概要)			
	2. 幼児理解とは何か			
	3. 子ども理解と歴史			
	4. 乳児の発達			
	5. 幼児の発達(1)			
	6. 幼児の発達(2)			
	7. 保育者の役割(1)			
	8. 保育者の役割(2)			
	9. 子ども観・保育観			
	10. 子どもを取り巻く現代の環境			
	11. 事例～3 歳の世界～			
	12. 事例～4 歳の世界～			
	13. 事例～5 歳の世界～			
	14. 気になる子どもへの対応・保護者の相談			
	15. まとめ			
評価方法	筆記試験・提出物・授業態度等を総合的に評価する。			
テキスト ※必ず購入	特になし			
参考書 ※必要に応じ購入	講義の際に適宜紹介する。			
受講条件 ルール等	受講者には大学より示されている基本的ルールを守りながら、積極的な授業参加を望む。			
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	事前学習としては、講義で扱うテーマに関して自分なりに考えてくる。 事後学習としては、講義で扱ったテーマに関して配付されたプリントやノート等を用いて自分の言葉でまとめることができるようにする。			

科目名	教育制度論 Educational System				
教員名	大 岡 ヨ ト			授業区分	〈幼〉 専門教育科目
年次配当	2 年次後期	単位数	2 単位	選択・必修	選択／幼免必修／保資選必
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				○
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				◎
授業表題	現代の教育制度と教育改革				
授業の 概要・目的	日本における教育制度の理念や構造を学び、特に幼児教育に関する法・政策・施設、さらには教育の実態などの理解を深める。				
授業の 到達目標	1. 教育を教育制度の視点から捉えなおすことができるようになる。 2. 諸外国の現状について学び、比較・考察をすることができる。 3. 教育制度の観点から今日の教育的課題や問題を総合的に捉える力を身につける。				
授業計画	1. 本講義の目的及び概要				
	2. 日本国憲法・教育基本法・学校教育法				
	3. 子どもの権利条約				
	4. 学校教育の歴史				
	5. 学校教育の制度と役割				
	6. 公教育の意義				
	7. 公教育の制度原則				
	8. 日本の教育制度				
	9. 諸外国の教育制度①(ドイツ・アジア諸国)				
	10. 諸外国の教育制度②(フランス)				
	11. 諸外国の教育制度③(イギリス)				
	12. 諸外国の教育制度④(アメリカ)				
	13. 教育行財政と学校経営				
	14. 教育制度の現状と課題				
	15. 総括				
評価方法	受講態度・提出物・期末試験などを総合的に評価する。 ただし、2/3 以上出席しなければ成績を評価しない。				
テキスト ※必ず購入	授業内で適宜資料を配布する。				
参考書 ※必要に応じ購入	授業内で適宜紹介する。				
受講条件 ルール等	積極的に受講すること。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	1. 毎日の生活の中で教育に関する新聞記事に目を通すこと。 2. 授業で取り上げたキーワードを復習すること。				

科目名	教育方法の研究				Method of Education
教員名	大 岡 ヨ ト			授業区分	〈幼〉 専門教育科目
年次配当	2 年次後期	単位数	2 単位	選択・必修	選択／幼免必修／保資選必
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				○
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				◎
授業表題	教育方法の理論と原理				
授業の 概要・目的	伝統的な教育方法論から最近の教育方法論の動向を理解し、その基本原理・形態・課題などについて学ぶ。				
授業の 到達目標	1. 教育方法の基本的な理論を理解する。 2. 教育者として必要な教育方法に関する具体的な手法を身につける。 3. 教育が直面する問題や課題について方法論的な視点から探究する力を獲得する。				
授業計画	1. 本講義の目的及び概要				
	2. 教育方法の理論と歴史(教育方法の系譜および意義)				
	3. 教育方法学の先駆者①(コメニウス・ルソー)				
	4. 教育方法学の先駆者②(ペスタロッチ・ヘルバルト)				
	5. 教育方法学の先駆者③(デューイ・フレーベル)				
	6. 教育方法の原理 1(系統主義と経験主義など)				
	7. 教育方法の原理 2(潜在的カリキュラム・顕在的カリキュラムなど)				
	8. 授業方法の原理 3(スキーマとスクリプトなど)				
	9. 授業の形態 1(一斉学習・個人学習など)				
	10. 授業の形態 2(習熟度別学習など)				
	11. 授業の計画・実践・評価				
	12. 情報や知識を提示・伝達する方法				
	13. 情報や知識を提示・伝達する技術(教育メディアとその活用)				
	14. 諸外国との比較				
	15. 総括				
評価方法	受講態度・提出物・期末試験などを総合的に評価する。 ただし、2/3 以上出席しなければ成績を評価しない。				
テキスト ※必ず購入	授業内で適宜資料を配布する。				
参考書 ※必要に応じ購入	授業内で適宜紹介する。				
受講条件 ルール等	積極的に受講すること。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	1. 毎日の生活の中で教育に関する新聞記事に目を通すこと。 2. 授業で取り上げたキーワードを復習すること。				

科目名	図画工作 I			Drawing and Manual Art I	
教員名	成 清 北 斗			授業区分	〈幼〉 専門教育科目
年次配当	1 年次前期	単位数	1 単位	選択・必修	必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				○
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				◎
授業表題	子どもの造形基礎				
授業の 概要・目的	保育現場での造形活動において必要とされる基礎的造形技能および知識を、自身の造形体験から学んでいく。				
授業の 到達目標	保育現場での造形活動において必要とされる基礎的造形技能および知識を獲得する。 子どもの造形に対する理解を深める。				
授業計画	1. オリエンテーション				
	2. 描画の多様な技法1				
	3. 描画の多様な技法2				
	4. 描画の多様な技法3				
	5. 色々な道具の使用法1				
	6. 色々な道具の使用法2				
	7. 色々な道具の使用法3				
	8. 造形に関する事例紹介				
	9. 身近な素材の用法1				
	10. 身近な素材の用法2				
	11. 身近な素材の用法3				
	12. 現代の多様な造形技法1				
	13. 現代の多様な造形技法2				
	14. 現代の多様な造形技法3				
	15. まとめ				
評価方法	提出物と発表内容、受講態度により総合的に評価する。 ただし、1/3 以上欠席した場合は評価の対象外とする。				
テキスト ※必ず購入	適宜プリントを配布する。				
参考書 ※必要に応じ購入	適宜プリントを配布する。				
受講条件 ルール等	授業への積極的な参加を求める。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	予習および復習の必要はないが、日頃から造形に対する関心を持つておくこと。				

科目名	図画工作Ⅱ Drawing and Manual Art Ⅱ			
教員名	成 清 北 斗		授業区分	〈幼〉 専門教育科目
年次配当	1 年次後期	単位数	1 単位	選択・必修 必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			○
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			◎
授業表題	子どもの表現基礎			
授業の 概要・目的	前期に獲得した基礎的造形技能および知識をもとに、保育現場での造形活動における様々な表現技法および知識を、自身の造形体験から学んでいく。			
授業の 到達目標	保育現場での造形活動における様々な表現技法および知識を獲得する。 子どもの表現に対する理解を深める。			
授業計画	1. オリエンテーション			
	2. 描画による多様な表現1			
	3. 描画による多様な表現2			
	4. 描画による多様な表現3			
	5. 色々な道具を用いた表現1			
	6. 色々な道具を用いた表現2			
	7. 色々な道具を用いた表現3			
	8. 表現に関する事例紹介			
	9. 身近な素材による表現1			
	10. 身近な素材による表現2			
	11. 身近な素材による表現3			
	12. 現代の多様な表現1			
	13. 現代の多様な表現2			
	14. 現代の多様な表現3			
	15. まとめ			
評価方法	提出物と発表内容、受講態度により総合的に評価する。 ただし、1/3 以上欠席した場合は評価の対象外とする。			
テキスト ※必ず購入	適宜プリントを配布する。			
参考書 ※必要に応じ購入	適宜プリントを配布する。			
受講条件 ルール等	授業への積極的な参加を求める。			
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	予習、復習の必要はないが、日頃から造形に対する関心を持つておくこと。			

科目名	保育内容／環境			Childcare Content : Environment	
教員名	福 田 篤 子			授業区分	〈幼〉 専門教育科目
年次配当	1 年次通年	単位数	2 単位	選択・必修	必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				○
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				○
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				◎
授業表題	「保育内容」「5領域」「環境」				
授業の 概要・目的	保育内容「環境」について学びます。子どもが身のまわりのさまざまな環境に触れて、好奇心や探究心をもってかかわり、遊びや生活を広げ深めていく経験について考えていきます。授業計画は予定であり状況に応じて変更することもあります。				
授業の 到達目標	1. 保育内容「環境」について理解する。 2. 子どもと環境とのかかわりや子どもの育ちを理解する。 3. 保育の場における環境設定について理解する。 4. 保育者の適切な援助のあり方を理解する。				
授業計画	1. オリエンテーション		16. 社会的環境		
	2. 幼児教育の目的		17. 行事に親しむ		
	3. 環境を通しての教育		18. 行事製作 1		
	4. 20 日大根の育て方		19. 行事製作 2		
	5. 20 日大根の栽培		20. 行事について発表		
	6. 幼児教育の基本1		21. 文化的環境		
	7. 幼児教育の基本2		22. 数量・図形に親しむ		
	8. 領域「環境」		23. 図形製作1		
	9. 環境の「内容」		24. 図形製作2		
	10. 自然環境		25. 指導計画につなげる		
	11. 自然画		26. 保育室の環境構成		
	12. 自然画・製作		27. 保育室の環境構成グループワーク1		
	13. 物的環境		28. 保育室の環境構成グループワーク2		
	14. リサイクル製作		29. 保育室の環境構成発表		
	15. まとめ		30. 総まとめ		
評価方法	授業参加態度、課題提出、定期試験などから総合的に評価します。				
テキスト ※必ず購入	領域「環境」(事例で学ぶ保育内容) (萌文書林) ISBN 4893470981				
参考書 ※必要に応じ購入	「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 「保育所保育指針解説書」フレーベル館				
受講条件 ルール等	色鉛筆、ハサミ、のり、色紙を各自で準備のうえ授業に参加してください。 授業時の私語、携帯電話の使用は厳禁です。守れない場合は退出を命じることがあり、その場合は欠席扱いにします。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説書」とテキストに目を通しておいてください。				

科目名	子どもの保健 I				Child Health I	
教員名	高 田 由香理			授業区分	〈幼〉 専門教育科目	
年次配当	2 年次前期(週 2 回)	単位数	4 単位	選択・必修	必修	
この授業の位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得					○
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立					
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立					
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢					◎
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮					
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得					
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮					
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得					
授業表題	健康な子ども達を育てられる保育者へなるために					
授業の概要・目的	子どもの発育・発達と、乳幼児期の病気について学ぶ。さらに、子どもの発育・発達に及ぼす要因や、保育現場での事故防止、現在の子どもの取り巻く健康問題を考える。					
授業の到達目標	子どもの発育・発達と、子どもの基礎的な病気を把握し、子どもの身心の特徴を理解する。子どもの健康を守り、増進していくように支援の方法を身につける。					
授業計画	1. 子どもの保健とは？			16. 風邪とは？		
	2. 母体の健康			17. 感染症1（細菌性）		
	3. 胎児期の発育・発達			18. 感染症2（ウイルス性）		
	4. 出産の生理機能			19. 子どもによくみられる症状1		
	5. 新生児の特徴と生理機能			20. 子どもによくみられる症状2		
	6. 乳幼児の特徴と生理機能			21. アレルギー疾患の内容と理解		
	7. 子どもの神経系の発達			22. 喘息・アトピー性皮膚炎		
	8. 子どもの器官・組織・感覚系の発達			23. アナフィラキシーショックへの対処		
	9. 子どもの精神の発達1			24. 痙攣への理解と対処		
	10. 子どもの精神の発達2			25. 子どもの事故1(特徴とメカニズム)		
	11. 子どもの社会性の発達1			26. 子どもの事故2(予防と対策)		
	12. 子どもの社会性の発達2			27. 応急手当と対処		
	13. 発育・発達に影響を及ぼす要因			28. 予防接種の内容と理解		
	14. 子どもの発育・発達のまとめ			29. 生と性の教育		
	15. 子どもの病気の特徴			30. 子どもの保健のまとめ		
評価方法	定期試験 出席は 2/3 以上とします。					
テキスト ※必ず購入	「わかりやすい子どもの保健」(同文書院・ISBN:9784810314120)					
参考書 ※必要に応じ購入	「保育のための小児保健」(保育出版社・ISBN:938795353) 「子ども健康学」(みらい・ISBN:486015049)					
受講条件 ルール等	やむを得ず欠席した場合は、配布したプリントを次の授業でとりに来て下さい。					
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	予習として、教科書の興味のあるところから読んでみて下さい。 復習は、授業で配布したプリントを読み直して下さい。					

科目名	障害児保育			Handicapped child care	
教員名	高 田 由香理			授業区分	〈幼〉 専門教育科目
年次配当	2 年次通年	単位数	2 単位	選択・必修	選択／保資必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				○
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				◎
授業表題	障害を理解し、障害児への支援方法を考える。				
授業の 概要・目的	障害について考え、基礎的な障害、子どもの精神障害、発達障害について学ぶ。 さらに、障害児への様々な支援方法を学ぶ。				
授業の 到達目標	障害を正しく捉える。様々な障害を理解し、子どもの精神障害や発達障害の理解を深める。障害児への支援の方法を学び、保育現場で実践できるようにする。				
授業計画	1. 障害の捉え方と保育現場での課題		16. 発達障害1(学習障害)		
	2. 障害1(先天性異常)		17. 発達障害2(ADHD)		
	3. 障害2(知的障害児)		18. 発達障害3(自閉症スペクトラム1)		
	4. 障害3(ダウン症候群)		19. 発達障害4(自閉症スペクトラム2)		
	5. 障害4(視覚障害児)		20. 発達障害5(発達性運動障害)		
	6. 障害5(聴覚障害児)		21. 発育・発達検査の考え方		
	7. 障害6(言語障害児)		22. 二次障害1(行動面の問題)		
	8. 障害7(肢体不自由児)		23. 二次障害2(情緒面の問題)		
	9. 障害8(重症心身障害児)		24. 支援方法1(家族への支援)		
	10. 障害9(後天性障害と高次機能障害)		25. 支援方法2(困った状況下での支援)		
	11. 子どもの精神疾患1(鬱病)		26. 支援方法3(知的障害児への支援)		
	12. 子どもの精神疾患2(心身症)		27. 支援方法4(運動を取り入れた支援)		
	13. 子どもの精神疾患3(不安障害)		28. 支援方法5(音楽を取り入れた支援)		
	14. 子どもの精神疾患4(摂食障害等)		29. 障害児の移行支援体制と現状		
	15. 障害と精神障害のまとめ		30. 発達障害と支援方法のまとめ		
評価方法	定期試験 出席は 2/3 以上必要とします。				
テキスト ※必ず購入	購入不要。こちらで資料を用意します。				
参考書 ※必要に応じ購入	「幼稚園・保育所の先生のための障害児保育テキスト」 (教育出版・ISBN:9784316803470)				
受講条件 ルール等	やむを得ず欠席をした場合は、配布したプリントを次の授業でとりに来てください。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	障害児に関する本を読んでみて下さい。 復習は、授業で配布したプリントを読み直して下さい。				

科目名	子どもの保健Ⅱ				Child Health Ⅱ
教員名	高 田 由香理			授業区分	〈幼〉専門教育科目
年次配当	2 年次後期	単位数	1 単位	選択・必修	選択／保資必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				○
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				◎
授業表題	健康な子どもを育てる保育者へなるために(演習)				
授業の 概要・目的	近年の子どもの健康問題について考える。演習を通して基礎的な実技を行なう。				
授業の 到達目標	子どもの健康問題に興味・関心を持つようになる。乳幼児と関わる基礎的な技術を身につけて、健康な子どもたちへ導くための支援を自ら考え実践できるようにする。				
授業計画	1. 健康水準の指標から子どもの健康を考える。				
	2. 小児保健統計から近年の子どもたちの健康状態を読みとる。				
	3. 保育現場で必要な衛生管理の技術を身につける。				
	4. 赤ちゃんの観察の仕方、身体計測、抱き方について学ぶ。				
	5. 乳幼児の排泄と、排泄に関する病気への理解を深める。				
	6. 乳幼児の病気でよくみられる症状への対処法を理解する。				
	7. 保健だよりの作成内容・方法を学ぶ。				
	8. 乳幼児の足の発達・病気について学ぶ。				
	9. 乳幼児の生活習慣(歯の健康・食事・睡眠)を考える。				
	10. 子どもの薬について理解し、使い方を身につける。				
	11. 子どもに影響を与える化学物質について考える。				
	12. 子どもに影響を与える放射性物質について考える。				
	13. 健康でユニークな保育の紹介1-じゃれつき遊びの紹介-				
	14. 健康でユニークな保育の紹介2-森の幼稚園の紹介-				
	15. まとめ(子ども自身が健康観を身につける保育を考える)				
評価方法	定期試験 出席は 2/3 以上必要とする。				
テキスト ※必ず購入	購入不要。こちらで資料を用意します。				
参考書 ※必要に応じ購入	「子どものからだと心 白書2014」(ブックハウス HD・ISBN:9784938335878) 「脳をきたえるじゃれつき遊び」(小学館・ISBN: 4093112622)				
受講条件 ルール等	演習など積極的に授業へ参加してください。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	予習として、子どもの健康に関するニュースや書籍に関心を持って下さい。				

科目名	児童館の機能と運営			Management of Children's house	
教員名	戸 澤 正 行			授業区分	〈幼〉 専門教育科目
年次配当	1 年次前期	単位数	2 単位	選択・必修	選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				◎
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				○
授業表題	児童館・学童クラブの実際を学ぶ				
授業の 概要・目的	今の子供たちを取り巻く環境や、児童館・学童クラブの目的である「健全育成」および「あそび」について学ぶ。また、実際の児童館・学童クラブの仕事を知ること、子供に関わる将来の職種の選択肢を広げる。				
授業の 到達目標	○子どもが健全に育つとは何か理解する。 ○人にとって「あそび」の重要性、児童館職員に必要な知識を理解する。				
授業計画	1. 子どもを取り巻く環境はどう変化してきたか				
	2. 健全育成の五要素				
	3. 児童館・学童クラブとは何か これまでの歩みと課題				
	4. 児童館の機能①				
	5. 児童館の機能②				
	6. 児童館の機能③				
	7. 児童館の機能④				
	8. 児童館の機能⑤				
	9. 「あそび」の重要性				
	10. 児童館におけるあそびとは				
	11. 「あそび」を指導するということ				
	12. 児童館職員に求められる能力				
	13. 児童館・学童クラブの一日				
	14. 児童館・学童クラブの未来				
	15. 職員への道 就職への具体的方法を知ろう				
評価方法	設定したテーマについて決められた字数によるレポート、授業態度				
テキスト ※必ず購入	毎回、テキストを用意します。				
参考書 ※必要に応じ購入	講義の中で紹介します。				
受講条件 ルール等	毎回、用意したテキストを読み込むこと。講義中に積極的に発言すること				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	必ず渡されたテキストや参考文献を良く読むこと。毎回、前回講義の振り返りをするので、疑問があれば質問し、自分の考えを話すこと。 児童館など施設見学をする際は、職員への質問を考えておくこと。				

